

創成研究機構化学反応創成研究拠点 (WPI-ICReDD) が新棟落成記念行事を開催  
特別功労賞を故吉見理事・副学長に授与  
「北海道ユニバーシティアライアンス」を設置



**ICReDD**  
Institute for Chemical Reaction Design and Discovery  
北海道大学 化学反応創成研究拠点

## 新棟落成記念式典

国立大学法人 北海道大学





特別功労賞を故吉見理事・副学長に授与



名誉教授称号授与式の挙行

## 全学ニュース

- 1 特別功労賞を故吉見理事・副学長に授与
- 2 「北海道ユニバーシティアライアンス」を設置
- 3 名誉教授称号授与式の挙行
- 4 第16回（令和5年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
- 5 令和5年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行
- 6 キャリア支援・就職担当教職員の情報交換会を初開催
- 7 ザンビアで日本留学フェアを開催
- 8 駐日欧州連合ジャン=エリック・バケ特命全権大使の講演会を開催
- 9 令和5年度第3回定例記者会見を開催
- 10 北大フロンティア基金
- 12 創成研究機構化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）が新棟落成記念行事を開催
- 13 フード&メディカルイノベーション国際拠点で施設公開イベントを実施 「学びと遊び」の融合が実現する、ビジネスゲーム・SDGs 緑日・研究成果発表会を開催
- 14 スポーツ×アントレプレナーシップ教育を目的に、バスケット教室を長沼町で開催
- 15 産学・地域協働推進機構がスポカル2023inつどーむに出展
- 16 国連大学ツェン シャオメン欧州副学長の特別講演を実施
- 17 ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」を開始
- 18 北海道大学、北海道電力株式会社及び公益財団法人北海道科学技術総合振興センターとの連携協定を締結
- 19 博士後期課程留学生向け日本就職に関する情報提供セミナー「Basic understanding of job hunting in Japan for international Ph.D students」を英語で開催

## 部局ニュース

- 20 経済学部成績優秀者表彰式を挙行
- 21 先端生命科学研究院ソフトマター国際連携ユニット（SMCR）がLeNetキックオフシンポジウムを開催
- 22 環境健康科学研究教育センター、保健科学研究院がHSI関連イベント「WHOオフィサーと語る～地球の未来とSDGs～」を開催
- 23 令和5年度国立大学歯学部長・歯学部附属病院長会議等を開催
- 24 ボゴール農科大学開催のIPB Job Fair 2023にHokkaido University Indonesia Front Officeが参加
- 25 農学研究院で第14回Sapporo Alumni Lecturesを開催
- 26 水産学部附属練習船「おしよ丸」北極航海へ出港
- 27 環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催
- 28 メディア・コミュニケーション研究院が中国・河北大学と初の学術会議を開催
- 29 「見て、聞いて、触って楽しむ最先端科学」研究所・センター等合同で一般公開を開催
- 31 第3回 北の森林サイエンスCAFE-地域の人が集う化学反応の場所へ
- 32 観光学高等研究センターが「さっぽろラウンドウォークオープン記念シンポジウム」を開催

## 博士学位記授与 33

## 表敬訪問 36

## 人事 37

- 38 新任副理事紹介
- 39 新任部課長等紹介

## 訃報

- 40 名誉教授 古市 隆三郎 氏

## 資料

- 41 令和4年度卒業・修了者の就職等状況一覧



令和5年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行



創成研究機構化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）が新棟落成記念行事を開催



フード&amp;メディカルイノベーション国際拠点で施設公開イベントを実施 「学びと遊び」の融合が実現する、ビジネスゲーム・SDGs 緑日・研究成果発表会を開催



北海道大学、北海道電力株式会社及び公益財団法人北海道科学技術総合振興センターとの連携協定を締結

表紙：創成研究機構化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）が新棟落成記念行事を開催（関連記事12頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景④ 第一農場（北12条西11丁目）

## ■全学ニュース

# 特別功労賞を故吉見理事・副学長に授与

生前、長きにわたり、北海道大学の役職員として、本学の管理運営及び教育研究の発展向上に多大な貢献をされた故吉見宏理事・副学長に対し、同氏が生前果たしたご功績、ご功労を称え、北海道大学として特別に感謝の意を表すため、5月22日（月）の

役員会にて、特別功労賞を授与することを決定しました。

同賞の授与に当たり、6月22日（木）に、総長室において、経済学研究院の久保田肇研究院長、久保淳司副研究院長及び岡田美弥子総長補佐立ち会いの下、寶金清博総長から、故吉見理事・

副学長への感謝のお言葉とともに、同氏のご長女である吉見明希様に対し、特別功労賞の表彰楯が手渡されました。

（総務企画部総務課）



左から、岡田総長補佐、久保田研究院長、吉見様、寶金総長、久保副研究院長

# 「北海道ユニバーシティアライアンス」を設置

北海道に所在する大学及び大学を設置する法人（以下「大学等」という。）が、各大学等の特色及び強みを生かしながら、教育、研究、社会連携、産学連携等に関する情報の収集、共有及び解析並びに具体的事業の検討及び実施を連携して行うことにより、シナジー効果を発揮し、もって北海道における地域課題の解決に資することを目的として、そのプラットフォームとなる「北海道ユニバーシティアライアンス」を6月19日（月）に設置しました。

本アライアンスは、設置当初は以下の8大学等によりスタートしますが、今後、設置目的に賛同する大学等に順次参画いただくことを想定しています。

- ・ 国立大学法人北海道大学
- ・ 国立大学法人北海道教育大学
- ・ 国立大学法人室蘭工業大学
- ・ 国立大学法人北海道国立大学機構
- ・ 国立大学法人北海道国立大学機構 小樽商科大学
- ・ 国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学

- ・ 国立大学法人北海道国立大学機構 北見工業大学

- ・ 国立大学法人旭川医科大学

なお、本アライアンスにおいては、北海道の大学全体の研究振興に向けた連携をはじめとして、教育、社会連携、産学連携等広くカバーしていきます。

（総務企画部総務課）

## 北海道ユニバーシティアライアンス構想

**北海道内の大学が課題でつながる**

**URAの活用**  
URAがIR分析を活用して道内大学を課題ごとに繋ぎ広げる  
新しい融合研究、教育連携、産学連携事業の立ち上げに貢献  
世界をリードする産業の創出へ

**アカデミズムの連携で地域の課題を解決**  
**北海道から世界へ**  
実用化を目指した研究開発、市場化へのシステム構築、同じ課題に直面する世界の地域へ応用  
一次産業従事者、企業、北海道ブランドを世界へ、北海道ユニバーシティアライアンス、自治体

**道内地域課題ごとに道内の関連大学が連携し課題解決に貢献**  
**将来的に道内大学コンソーシアムを形成**

北海道大学

北海道ユニバーシティアライアンス構想

## 研究分野における道内大学との連携の可能性

**各大学の強みを伸ばし、北海道から国内外の課題解決に貢献**

**各大学と結びつく北海道大学の研究（例）**

- 室蘭工業大学**
  - 計算機科学（情報システム）
  - 電気通信分野
  - 航空宇宙機システム研究センター
  - 航空宇宙推進エンジンの開発
  - IoEを活用したスマート農業
  - アシルトイタによる心と体に響く新しい食の価値共創拠点（COI-NEXT 育成型）
- 北海道教育大学**
  - へき地・小規模校教育研究センター
  - へき地教育プログラム
  - 未来の学び協創研究センター
  - ICT活用教育
  - 子どもの体力と学力の関係(COI-NEXT)
- 旭川医科大学**
  - 北海道臨床開発機構
  - 地域医療に目を向けた教育方針
  - 遠隔医療システム
  - 旭川フェルビーイング・コンソーシアム
- 小樽商科大学**
  - マーケティング
  - ユニバーサル・流通システム
  - ビジネスプロフェッショナル・ドクター養成MBA特別コース
  - アントレプレナーシップ専攻による起業家育成、HSFC・Hクロスでの連携
  - パクテリアセルロースゲルの製造
- 帯広畜産大学**
  - 農学（酪農学・畜産学）
  - 食の生産向上と安全性
  - 牛肉のおいしさ評価システムの開発
  - 獣医学、寄生生物学、生殖生物学
  - 原虫病予防・治療
- 北見工業大学**
  - 地域循環共生研究推進センター；寒冷地環境、極域（北極・南極）、再生可能エネルギー・炭素
  - 冬季スポーツ科学研究推進センター；寒冷地地域QOL向上、生涯スポーツ、アスリートの国際的競技力向上
  - オホーツク農林水産工学連携研究推進センター；機械知能情報、第1次産業への工学的支援
  - 地域と歩む防災研究センター；寒冷地防災
- 北海道教育大学**
  - 機械宇宙工学
  - 宇宙機用キックモーター
  - 農業の省力化、地域農業の振興
  - スマート農業
  - 衛星資源計測
  - リモートセンシング
  - WPI-ICReDD：化学反応
  - 「食と健康の達人」拠点（COI）
  - ところとカラダのライフデザイン共創拠点（COI-NEXT）
  - 南極・北極域研究
  - T/V おしよる丸
  - セルロースナノファイバー
- 北海道教育大学**
  - バイオマス活用
  - バイオガスプラント（COI-NEXT 育成型）
  - 人工触媒によるバイオマス変換
  - 経済安全保障：種苗生産・改良

※北大研究IRデータと各大学HP等公開情報に基づく

研究分野における道内大学との連携の可能性

## 名誉教授称号授与式の挙行

先に本学名誉教授に決定された方々（50名）に対する称号授与式を6月6日（火）に学術交流会館講堂において執り行いました。

当日出席された19名の名誉教授一人ひとりに、寶金清博総長が称号を授与した後、永年にわたるご尽力に感謝の言葉が述べられました。また、閉式後は記念撮影が行われました。

（総務企画部人事課厚生労務室）



名誉教授称号授与式出席者一同

## 第16回（令和5年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

新渡戸カレッジの大学院教育コースでは、6月18日（日）に高等教育推進機構において、第16回メンターフォーラムを開催しました。

社会の多様な分野で活躍する方々がメンターに就任し、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを念頭に、カレッジ生自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流を通じ、自身のキャリアパスをより

具体的に考える機会として、夏と冬の年2回開催しています。

当日は、第1部として講演会を行い、「キャリアパスを考える」をテーマとし、5名のメンターに、ご自身のキャリアや実社会における経験に基づくアドバイス等について英語でご講演いただきました。新渡戸カレッジ生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていました。

続く第2部では、新渡戸カレッジ生が各メンターに自由に質問し対話を行う交流会として実施しました。新渡戸

カレッジ生は大学における研究活動及び今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスをもらうことができました。

本メンターフォーラムを通して、新渡戸カレッジ生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインに繋げていくことができるか等について、貴重な洞察を得ることができたようです。

（学務部教育推進課）



講演会様子（藤井幸大メンター）



講演会様子（集合写真）



交流会におけるメンターとの対話の様子1



交流会におけるメンターとの対話の様子2

# 令和5年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム 留学生採用証書授与式を挙

5月30日（火）、高等教育推進機構において、北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙

行しました。北海道大学私費外国人留学生特待プログラムは、学業成績が優秀かつ国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開始され

た制度です。大学院に入学する私費外国人留学生を対象としており、研究分野、研究課題等を明確にしたプログラムに基づき受入れを行っています。

授与式には採用者11名のうち8名が出席しました。指導教員ら列席者が見守る中、山口淳二理事・副学長から採用者一人ひとりに採用証書が授与され

ました。続いて、本学での様々な経験を通して世界で活躍する人物へ成長してほしいと激励の言葉が述べられ、学生達は真剣なまなざしで聞き入っていました。

（学務部学生支援課）



全員での記念撮影



山口理事・副学長から証書授与

# キャリア支援・就職担当教職員の情報交換会を初開催

6月1日（木）、高等教育推進機構キャリアセンターと大学院教育推進機構先端人材育成センターの共催で、各部署のキャリア支援・就職担当教職員との情報交換会を開催しました。

本学では両センターと各部署の就職担当の教職員との連携の下、学生へのキャリア支援を行っています。各部署におけるキャリア支援に関するノウハウの蓄積や全学的な情報交換・支援体制の強化については、今後の課題となっていました。本学が掲げる「学部から博士まで一貫したキャリア教育の強化」の実現に向け、大学運営や各部署・両センターにおいて課題となっている事項について、両者が協働で取り組む体制の強化のため、今回初めて部

局の就職担当の教職員と両センターの教職員による情報交換会を開催することとなりました。

当日は、高等教育推進機構長の山口淳二理事・副学長、大学院教育推進機構長の山本文彦理事・副学長からの挨拶の後、亀野 淳キャリアセンター長と吉原拓也先端人材育成センター長から、それぞれのセンターの取り組みについて資料を用いて説明がありました。

また、昨年初めて実施した全学的なキャリア教育についての調査結果について、先端人材育成センターの和田肖子特任准教授から報告を行いました。

質疑応答では、グローバル環境への就職活動や部局で実施するガイダンスについて意見交換が行われました。

終了後のアンケートでは、全学的なキャリア支援の全体像が把握できた、どのような内容ならどこにつなげばよいか明確になり、学生の就職支援に役立てたいこと、学生への就職支援の対応がしやすくなった、キャリア支援関連の横の繋がりができる場になって良かったなどの意見が寄せられました。

事前に参加者の皆様からいただいた課題や問題点については、時間の都合により意見交換を行うことができず、今後の課題となりましたが、今後も両センターから学生支援のための情報を発信していきますので、ご協力をお願いいたします。

(キャリアセンター・先端人材育成センター)

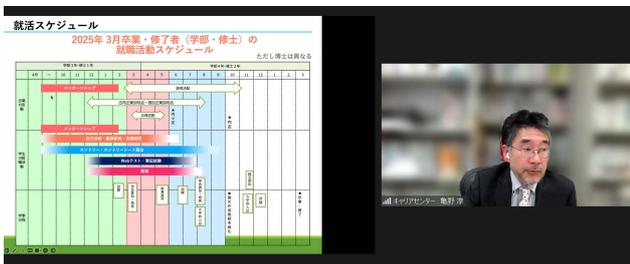
タイトル：キャリア支援・就職担当教職員の情報交換会

日時：令和5年6月1日（木）13：15～14：15

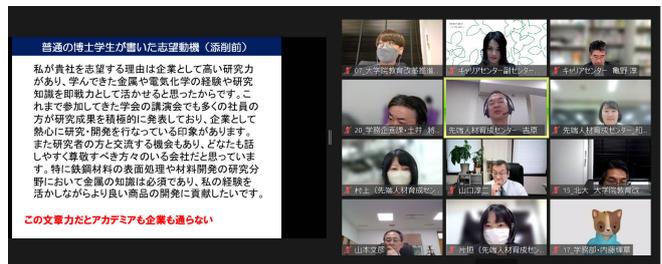
対象：北海道大学の学生のキャリア支援にかかわる教職員（就職担当教員、就職担当部門の職員等）

会場：オンライン（Zoom）及びオンデマンド配信

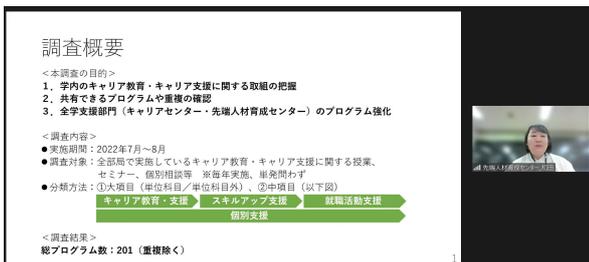
- 内容：(1) 挨拶 高等教育推進機構長/理事・副学長 山口淳二  
 大学院教育推進機構長/理事・副学長 山本文彦  
 (2) 趣旨説明  
 (3) 両センターのキャリア支援取り組み説明、各部署等への依頼事項  
 高等教育推進機構キャリアセンター長 亀野 淳  
 大学院教育推進機構先端人材育成センター長 吉原拓也  
 全学キャリア教育・支援プログラムに係る取り組みの調査報告  
 大学院教育推進機構先端人材育成センター 特任准教授 和田肖子  
 (4) 意見交換・事前質問への回答



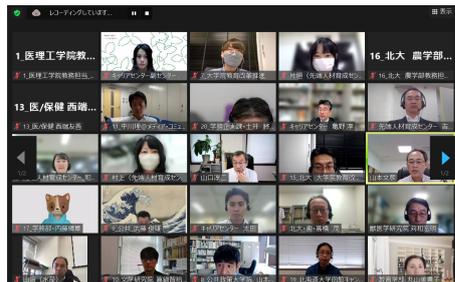
亀野キャリアセンター長からのセンターの活動や就職活動に関する説明



吉原センター長からの学生のエントリーシートの例を用いた説明と、説明を聞く参加者



和田特任准教授からの調査結果報告



山口理事・副学長、山本理事・副学長からの挨拶と参加者の様子

## ザンビアで日本留学フェアを開催

アフリカルサカオフィスでは、本学が文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）」の一環として、5月12日（金）に日本留学フェアを開催しました。本フェアは、ザンビアの首都ルサカ市内に位置し本オフィスのあるザンビア大学の協力を得て開催したものです。

本フェアは、コロナ禍後にザンビアで開催する初の対面式留学フェアで、学部・大学院双方の留学希望者を対象としました。全体説明会と、フェア参加大学及び団体ごとの個別相談会の二部構成で行われ、403名が参加しました。全体説明会では、本オフィスによる日本留学に関する一般的な説明に加え、各機関・団体のプログラムや奨学金の紹介のほか、5月31日（水）締切の大使館推薦による国費外国人留学生募集説明も行われました。また、奨学

金を得て日本へ留学したザンビア人元留学生3名が留学準備や奨学金応募、日本での生活や留学後のキャリアパスに関する座談会を行いました。

本フェアでは、本学、東京外国語大学、創価大学、長崎大学、在ザンビア日本国大使館、日本学術振興会（JSPS）ナイロビ研究連絡センターが出展し、アフリカルサカオフィス所長である獣医学研究院の奥村正裕教授が挨拶を行いました。司会には、本事業の留学コーディネーターだけでなく、本学で博士号を取得後、人獣共通感染症国際共同研究所国際展開推進部門（ザンビア拠点）で博士研究員をしているミシエク・シャワ氏を加え、参加者に親近感を感じてもらおう工夫をしました。個別相談会では、各大学及び団体の、それぞれのプログラムや奨学金制度への参加者からの直接質問に加え、元国費留学生にも経験者としてのアドバイスを

求める姿が多数見られました。

今回はコロナ禍以降、初の対面フェア開催ということもあり、新しい試みとして、7月から日本への交換留学を予定しているザンビア大学の学生2名や、現在ザンビア大学に交換留学生として在籍中の日本人留学生3名に、受付や全体説明会での日本の大学紹介、個別相談会でのブース対応など、学生目線で協力いただいたところ、個別相談会は特に好評でした。オフィスのあるザンビア大学内で開催し、普段から学生たちとの信頼関係が築けていたためできたことでもあります。日本の大学をより身近に感じてもらうには学生の協力は大変有効でした。本オフィスは、今後も対面、オンライン及びハイブリッドによる活動を活発化させていきます。

（国際部国際連携課）



全体説明会の様子



個別相談会の様子

## 駐日欧州連合ジャン＝エリック・パケ特命全権大使の講演会を開催

6月29日（木）、駐日欧州連合ジャン＝エリック・パケ特命全権大使をお迎えし、フロンティア応用科学研究棟の鈴木章ホールにて、「変わりゆく世界における日・EU関係（EU-Japan Relations in a changing world）」をテーマに、本学教職員・学生向けの講演会を開催しました。

本講演会には、法学研究科の中村督教授が担当する「ヨーロッパ政治史」の履修学生、新渡戸カレッジ生をはじめ、学内から約200名の教職員・学生が参加し、会場は満席となりました。

中村教授による挨拶、パケ特命全権大使の紹介の後、パケ特命全権大使からは、EUの歴史、EU内での危機対応、気候変動、環境問題対応などのEUに関する説明、安全保障分野での日EUの協力や2023年5月のG7広島サミットなど日本とEUの関係についての説明とともに、参加学生に対し、ぜひ一度ヨーロッパを訪れてほしいというメッセージが伝えられました。

講演後の質疑応答では、参加者から「EUの気候問題に関する市民の参加について」「日EU間で締結されてい

る日EU戦略的パートナーシップ協定（SPA）で協力を強化すべき分野」「日EU間の今後の具体的な連携強化のあり方」「日EUが導入を推進している電気自動車に必要な資源に関連する労働環境や環境問題への対策について」など、たくさんの質問がありました。講演会後も、多くの学生が質問のためにパケ特命全権大使を囲むなど、盛会のうちに終了しました。

（国際部国際連携課・法学部）



講演を行うパケ特命全権大使



会場の様子

## 令和5年度第3回定例記者会見を開催

6月15日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けて分かりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。行松泰弘理事の進行のもと、地球環境

科学研究院の堀之内武教授、HSI専門委員会の石塚真由美委員長（獣医学研究院・教授）が発表を行いました。北海道教育庁記者クラブ加盟社等から6名の参加がありました。発表内容は以

下のとおりです。

（社会共創部広報課）

### 発表事項（発表者）

- ・気象衛星ひまわりの超高頻度観測により台風の目の変化を検出～台風の強度推定と予報の向上への貢献に期待～  
（地球環境科学研究院 教授 堀之内武）
- ・Hokkaido サマー・インスティテュート 2023  
（HSI専門委員会委員長 獣医学研究院 教授 石塚真由美）

※発表資料掲載URL

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/org/pr/press-conference/R5.html>



発表を行う堀之内教授



発表を行う石塚教授



当日の発表者と司会を務めた行松理事  
（左から石塚教授、行松理事、堀之内教授）

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

**北大フロンティア基金情報**  
**基金累計額** (5月31日現在)

38,536件 6,374,001,868円

## 5月のご寄附状況

法人等25社、個人462名の方々から17,569,018円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

### 寄附者ご芳名 (法人等)

CARL ZEISS MEDITEC 株式会社、サンマルコ食品、医療法人王子総合病院、株式会社Agoora、株式会社LOHASTYLE、株式会社SMC、株式会社TLG、株式会社アンビエンテ丸大、株式会社グリットウェブ、株式会社ジャストイット、株式会社トイント、株式会社大歩、宮脇グループホールディングス株式会社、国土防災技術株式会社、三井ホーム北海道株式会社、三鷹光器株式会社、積水化学工業株式会社、苫小牧市立病院、日本ライフライン株式会社、有限会社マツヤ

### 寄附者ご芳名 (個人)

合川 正幸	青井 良平	青木 俊介	縣 正樹	赤平 幸郎	明楽 光家	阿部 雅史	阿部 稔
荒木 武夫	安藤 公彦	池田 重雄	井指 康裕	石井 哲夫	石垣 隆弘	石原 廣司	伊勢 拓人
板橋 正明	市坂 有基	伊藤 康二	伊藤 大貴	伊藤 仁	伊藤 寛史	伊藤 雄三	稲富 美仁
井上 直樹	猪股 路子	井原 博	今井 晋	入澤 秀次	岩井 誠司	岩村 豊	上田 秀樹
上田 雅敏	上野 利之	宇田 亮子	梅原 俊志	梅本 由佳	江河 直人	繪内 正道	縁記 和也
遠藤 公憲	遠藤 俊徳	大久保道男	大竹 翼	大中 大輔	大野 泰熙	大原 正範	小笠原美勝
小川 弥生	沖崎 遼	小倉 崇恵	小田原一史	小野 遥	小原 大和	柿崎 恒美	角田 明彦
笠島 雅之	片桐 健吾	加藤 伸康	加藤 裕貴	金岡 晶	金川 真行	金子 治子	金田 亮平
加部 一彦	上林 菜月	亀倉 更人	川手 雅美	河本 充司	木暮 靖志	衣川 暢子	木村 昭治
木村 祐介	桐山 宏紀	工藤美希子	久保 康一	倉島 崇	栗原 誠治	久連山秀樹	上月 浩
越澤 勝	小西 健司	小林 賢人	小林 伸一	小守林 訓	齊藤 晋	齋藤 久	境 政人
坂本 大介	崎元 大志	佐々木達人	佐藤 雅彦	佐藤 道男	澤田 洋一	三升畑元基	汐川 孝
重田 親司	志済 聡子	下道 智春	柴田 卓哉	柴田 祐次	嶋本 明雄	新宮 康栄	菅原 育哉
菅原 新也	杉江 和男	杉野目 浩	杉本 聡	鈴木 國雄	鈴木 貴之	鈴木 正司	関根 君恵
瀬名波栄潤	相馬 満	大利 徹	高木 成一	高桑 隆三	高瀬登志彦	高田 隆志	高野 伸栄
高橋 克幸	高橋 朋江	高橋 直哉	高柳 涼	武智 弘明	田中 大喜	田中 裕子	田中 諒
田丸 雅敏	田宮 直彦	千明 藤二	土家 琢磨	恒川 昌美	寺澤 睦	寺田 努	寺村 博行
東條 隆郎	徳勢 正昭	留目 一英	土橋 晋也	豊田 威信	長尾 博志	中尾 幸代	中川 清美
仲川 心平	中島 敏夫	長縄 豊明	中村 景子	中村 恵恵	中本 富基	中屋敷拓己	滑川 哲夫
南波 邦雄	新美 大伸	西川 和子	西田 実弘	西脇 侑希	沼 光明	根本 叔治	野崎 岳夫
萩原 寛司	橋本 直幸	花田 秀一	林 修嗣	番場 堅	日景 隆	樋口 幹雄	平井 玲

平松 亨	廣木 誠	福井 睦子	福士 幸治	福田 覚	福永 悟郎	藤澤 裕子	藤森 俊介
藤森 康容	古川 俊実	古川 正志	邊見 龍樹	堀内 雅弘	本堂 武夫	増田 隆夫	増田 亨
松井 耕二	松原 謙一	松本 嶺	真屋 幹雄	三木 證永	水谷 寛	南田 大朗	宮田 信幸
三好 康雅	向井 真弓	武藤 清秀	村瀬徳啓充	村瀬 亮太	元家 瑞月	守内 順子	矢嶋 剛
山口 淳二	山口 直子	山崎 吉之	山下 央	山本 広美	行松 泰弘	柳 庚槿	湯澤 明夏
横山 考	義家 敏正	吉岡 正俊	吉田 篤生	吉田 広志	吉本 幸矩	若狭 哲	渡部 克将

## 銘板の掲示 20万円以上のご寄附で新規に銘板を掲示される方 (個人)

梅原 俊志、金岡 晶、関根 君恵、中川 清美、古川 俊実、柳 庚槿

## 〈感謝状の贈呈〉



株式会社バッファロー様 (令和5年5月8日)

## ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。  
<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

### ①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (兼・給与口座からの引落依頼書)」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

### ②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

### ③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (教職員現金用)」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

### ④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当 (事務局・学内電話 2017)

(社会共創部広報課)

# 創成研究機構化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）が 新棟落成記念行事を開催

6月16日（金）、創成研究機構化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）の新棟落成記念式典を開催しました。

令和5年2月末、北海道大学札幌キャンパス内の北キャンパス地区にICReDD専用の新たな研究棟（北キャンパス総合研究棟8号館）が完成しました。

新棟は異分野の研究者が一つの空間に集い、密な連携を可能とするアンダーワンルーフ型の研究施設として設計されており、ICReDDにおける計算科学・情報科学・実験科学の3分野融合研究のさらなる加速化が期待されます。また、従来施設に比べ50%以上の

省エネルギー化を実現した建築として、環境に配慮した施設となっており、「ZEB Ready」相当の認証を取得しています。

式典の開式にあたり、本学寶金清博総長からの挨拶の後、文部科学省の奥野 真大臣官房審議官より永岡桂子文部科学大臣祝辞のご代読、独立行政法人日本学術振興会世界トップレベル研究拠点プログラムの方川 彰プログラムディレクターより祝辞を賜りました。

式典に引き続き、新棟内覧会を開催しました。内覧会では新棟の建築上の特徴や実験室、最先端の装置、研究室

の特徴を説明し、中でも新棟の大きな特徴である、2フロアにまたがる広い吹き抜け空間に、約100名の研究者が分野の垣根を越えてデスクを構える「フュージョンリサーチオフィス」は、参加者からの関心を集めていました。最後に、ICReDDの前田 理拠点長より閉会の挨拶が述べられ、ICReDD新棟落成記念式典及び内覧会は盛会のうちに終了しました。

（創成研究機構化学反応創成研究拠点）



寶金総長からの挨拶



テープカットの様子



フュージョンリサーチオフィス内覧の様子



前田ICReDD拠点長からの挨拶

# フード&メディカルイノベーション国際拠点で施設公開イベントを実施 「学びと遊び」の融合が実現する、ビジネスゲーム・SDGs 縁日・ 研究成果発表会を開催

6月3日（土）、4日（日）の二日間で、産学・地域協働推進機構、サステナビリティ推進機構、大学院教育推進機構が協力し、大学祭と合わせて北キャンパスフード&メディカルイノベーション国際拠点で施設公開イベントを実施しました。当日は、大学生・大学院生と共にカードゲームを通じて未来について考えるワークショップ「ゲームを通じて未来について考えよう!」、 「SDGs縁日」や「研究成果でSDGsに貢献する発表会（ポスター発表）」を開催しました。縁日では、マカリズマーケット様ご協力のもと、味やおいしさは変わらないのに廃棄されてしまう規格外野菜、賞味期限が近い加工食品などが当たるガチャガチャをはじめ

め、ポケットどさんこくん防災クイズ、フードロスクイズ、お野菜クレヨンで作るオリジナルカード、バッグ作りなど盛り沢山のイベントを開催しました。

「ゲームを通じて未来について考えよう!」では、大学生チームと産学・地域協働推進機構が制作したビジネスカードゲーム「チャレンジピッツァ」を実践しました。このゲームは、参加者がビジネスの世界を体験できることに加え、様々な経営課題や社会課題を自分でアイデアを考えて乗り越える重要性を学び、思考力、判断力、そして創造力を育むことを目的としています。対象年齢は小学3年生以上と幅広く、大人から子供まで多くの参加者が

楽しみました。参加者からは、「お金がどんどん増えてたり、考えるのが楽しい」「積極的に自分の考えを発表することが大切だと思った」「商売とイノベーションの関係がゲームを通じて分かるようになっていて、楽しめました」などの意見をいただきました。

これらのイベントは、ただ楽しむだけでなく、社会問題について考え、自分たちの行動が未来にどう影響するかを理解するための場でもあります。当日は、250名を超える来場者が訪れました。今後も、皆様と共に楽しく学ぶ場を育てていきます。

（産学・地域協働推進機構）



フードロスの野菜を持ち帰る様子



研究発表ポスター



防災クイズにチャレンジする様子



カードゲームに取り組む様子

## スポーツ×アントレプレナーシップ教育を目的に、 バスケット教室を長沼町で開催

6月17日（土）、長沼町小学校にて、産学・地域協働推進機構は大学のアントレプレナーシップ教育を展開すること、及び幅広い地域で教育機会を提供することを目的に、バスケットボール教室とアントレプレナーシップ教育を組み合わせた新たなプログラムを実施しました。プログラムには、長沼町を中心に12名の子供たちが参加し、北海道大学男子バスケットボール部などのバスケットボール経験者の本学の大学生4名、北海道大学教職員3名が指導にあたりました。

プログラムにおいて、子供たちは基礎練習や試合などを楽しみながらバスケットボールを行うことに加え、アントレプレナーシップ、特にチームワークについてのレクチャーを受けました。単なるスポーツ教室ではなく、スポーツを通じて社会性やリーダーシップ、そして協働して取り組むことの価値を理解する機会にもなりました。

バスケットボールの試合は、チームメイトと共に勝利を目指すことが重要で、一人ひとりが自分の役割を理解

し、責任を全うし、チーム全体が一丸となって動く必要があるという点で、まさにアントレプレナーシップの精神を体現しています。こうした経験を通じて、子供たちは単に技術を学ぶだけでなく、自分の行動がチームにどのように影響を与えるかを実感しました。また、最後には、大学生インストラクターからメッセージ付きのプレゼントが渡され、双方にとって重要なコミュニケーションの機会となりました。

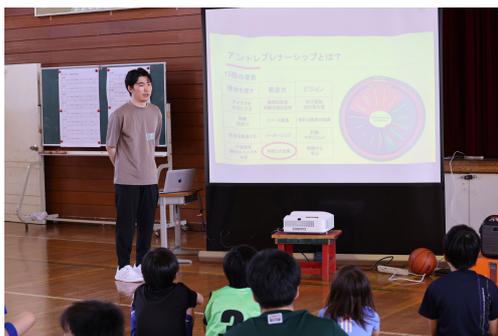
参加者からは、「練習や試合で、失敗しても『惜しい!』『上手くなったね』『大丈夫だよ』と声をかけてくれて嬉しかった」「大学生が教えてくれてすごく楽しかった」「また参加したい」という意見があがりました。また、保護者からも「普段少ない人数でミニバスをしていて、試合などが出来ない状況なので、大人数でバスケットをする機会を与えてくださり感謝している。子供もバスケットの楽しさを再認識できたと思う」、「スポーツの楽しさとチームワークを学べたのが良かった」「シュートが入った時に褒めてもらえたり、楽し

くバスケットが出来ている様子だった」などのポジティブな意見をいただきました。参加したインストラクターの大学生も「普段接することの少ない小学生とスポーツを通じて交流することができ、非常に有意義な時間となった」「乗り気ではなかった子が、自発的に参加する姿勢を見せたことや子供一人ひとりに役割が生まれ、チームとしての決まり事を遂行できたことが嬉しかった」などの意見があり、双方にとって有意義な結果となりました。

スポーツの楽しさを伝えることに加え、スポーツや交流のための機会創出、アントレプレナーシップの醸成など、スポーツと学びが交差する新たな取り組みを、引き続き実施していきます。

本取り組みは、株式会社TKF Project 兼本学学生の越智啓吾さんの強い協力のもとに実現しました。ご後援いただいた長沼町様、大学生インストラクターの皆様にも心より感謝申し上げます。

（産学・地域協働推進機構）



アントレプレナーシップのレクチャー



基礎練習をする様子



参加いただいた皆様



大学生からの手書きのメッセージ

## 産学・地域協働推進機構がスポカル2023inつどーむに出展

6月18日（日）、産学・地域協働推進機構のアントレプレナーシップ教育部門がスポーツとカルチャーの体験が楽しめる「スポカル2023inつどーむ」に出展しました。社会課題やビジネスについて学べるカードゲーム「チャレンジピッツァ」と、フードロスについて学ぶことができるクイズラリーを実施しました。体験には200人の子供たちが参加し、ビジネスや社会課題への学びを深めました。

カードゲーム「チャレンジピッツァ」では、子供たちはピザ屋さんを経営しながら、ピザ屋さんの課題を解決するアイデアを考えました。解決するアイ

デアを発表する場面では、内気な子供も頑張って発表する姿が見受けられ、子供たちの成長を感じることができました。ゲーム終了後のアンケートでも「ゲームが楽しかった」「ビジネスについて分かった」など肯定的な意見が多く集まりました。

フードロスについて学ぶクイズラリーでは、子供たちはフードロスに関するクイズに挑戦しました。子供たちは食品の無駄を減らすための方法や、持続可能な消費について学びながら楽しんでいました。クイズラリーを通じて、自分でも実践できるフードロスへの取り組みについてアイデアを考えて

おり、大きな社会課題を自分ごととして捉えることができました。

このようなイベントを通じて、子供たちは学びとともに、社会課題への関心とビジネスへの理解を育んでいました。私たちは、子供たちの個性や主体性、ビジネスや社会課題への関心を育むことを目的として、アントレプレナーシップ教育を実施しています。今後もより良い教育環境を提供するために、様々なイベントを企画・実施していきます。

（産学・地域協働推進機構）



会場の様子



ゲームのルールを説明する様子



チャレンジピッツァをする様子



フードロスクイズに挑戦する様子

## 国連大学ツェン シャオメン欧州副学長の特別講演を実施

サステナビリティ推進機構と国際連携機構は、5月19日（金）に学术交流会館小講堂で国連大学のツェン シャオメン欧州副学長の特別講演を実施しました。

ツェン欧州副学長は、国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）の山口しのお所長と共に本学を表敬訪問され、横田 篤理事・副学長、高橋 彩理事・副学長との懇談後、本講演会において特別講演を行いました。

本講演会は、山口所長をコメンテーターとして、「Risk Adaptation and

Transformation Research for a Sustainable Future」と題して行われたものであり、ツェン欧州副学長からは、特別講演の中で、気候変動等によってもたらされる災害リスクを中心に説明があり、地球上には災害に対するリスクや脆弱性が、国や地域を超えて相互に関連して存在していること、その上で、持続可能な発展を続けていくためには、これまでのシステムを分析して変えていく必要があることや、災害を相互関連的に捉えるよう一般の人々への科学的なコミュニケーション

が重要であること、そのために、力を合わせて変化をもたらすことが大切であることについて話がありました。

本講演会は英語で行われ、教職員と学生合わせて25名が聴講しました。講演終了後には、大学院生を中心に様々な質問があり、活発な意見交換が行われました。

（サステナビリティ推進機構、国際連携機構）



集合写真



講演を行うツェン欧州副学長



コメントをする山口所長

## ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs (ハーツ)」を開始

保健科学研究院、サステナビリティ推進機構SDGs事業推進本部、株式会社アークス、株式会社ラルズ及び株式会社ツルハは、健康で持続可能な地域社会づくりへの貢献を目指すウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs (ハーツ)」を開始しました。

H-ARTsは、ウェルネスを推進するために、Health Care (ヘルスケア=健康) にArt (アート=芸術) 的な思考や、それぞれの術 (わざ) を用いて新しい価値を創造するという意味と、4者の英語表記 (Hokkaido University,

Arcs, Ralse, Tsuruha) の頭文字をとったもので、本連携の枠組と活動の総称です。

本プロジェクトの開始に合わせ、5月28日 (日) にスーパーアークス北24条店1階催事スペースで、一般の方々を対象に、脳年齢、血管年齢、骨の健康、肌年齢の4種類について自身で気軽に健康チェックができるイベント「無料で健康チェック！」を行いました。

イベントでは、約170名の健康チェックを行ったほか、栄養士による栄養相談も実施し、健康について気軽に学ぶ

ことができる機会となりました。

今後も、保健科学研究院の研究に基づく健康チェック方法の提供、株式会社アークス、株式会社ラルズ及び株式会社ツルハの店舗を活用した測定の実施、食事やサービスの提案、健康相談を実施する予定です。

また、自治体との連携や、市内の中学・高校などへの出前講座、新たなサービスの開発なども検討していきます。

(サステナビリティ推進機構、  
保健科学研究院)



「無料で健康チェック！」の様子

## 北海道大学、北海道電力株式会社及び公益財団法人 北海道科学技術総合振興センターとの連携協定を締結

北海道大学、北海道電力株式会社及び公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）は「北海道大学キャンパスにおけるゼロカーボン実証実験事業に関する連携協定」を、6月22日（木）に締結しました。

本協定は、北海道大学のキャンパスをフィールドとしたゼロカーボン実証

実験事業の計画作成を目的とするものであり、今後3者は、実証実験を行うための具体的な計画を作成し、キャンパス内のゼロカーボンを目指しつつ道内全体に展開することによる地域課題の解決やゼロカーボン北海道を実現することを目指しています。

本協定による連携に基づき、エネルギーの低炭素化と災害レジリエンスが

共存する「エネルギーレイク」、循環型社会に対応するための新たな経済基盤となる「キャンパス循環モデル」を複合した共創拠点としての本学のあり方を模索していきます。

（サステナビリティ推進機構）



北海道電力株式会社本社での連携協定締結式の様子

## 博士後期課程留学生向け日本就職に関する情報提供セミナー 「Basic understanding of job hunting in Japan for international Ph.D students」を英語で開催

大学院教育推進機構先端人材育成センターI-HoPは、6月22日（木）に博士後期課程留学生を対象とした英語による日本就職に関する情報提供セミナー「Basic understanding of job hunting in Japan for international Ph.D students」を開催しました。博士の民間企業での採用は、業界によって採用活動の時期が異なることや、博士の専門性をエントリーシートや面接でどのように伝えるか等、学部生や修士とは異なる知識やスキルが必要となります。

当日は、若手博士に特化したキャリア支援サービス博士情報エンジンwakateを展開する株式会社エマージングテクノロジーズから代表取締役社長の深澤知憲氏を講師に迎え、日本での博士人材の就職活動について民間企

業とアカデミックポジションそれぞれのスケジュールや、専門性を社会への貢献へと繋げてアピールする方法、企業から求められる日本語力等について説明が行われました。

博士人材育成コンソーシアムの連携大学を含む全国7大学（北海道大学、東北大学、筑波大学、横浜国立大学、兵庫県立大学、立命館大学、沖縄科学技術大学院大学）から計26名の留学生が参加し、終了後のアンケートでは「日本での就職活動について多くを学ぶことができました。特に、博士向けの就職活動のスケジュールについて聞くことができ、とても有益でした」「セミナーは本当に有益でした。日本企業やアカデミアにおける採用のプロセスについて明確に理解することがで

きました」等のコメントが寄せられました。

北海道大学は第4期中期目標・中期計画に基づく大学院改革のうち、キャリア支援に関して、「学部から博士までの一貫したキャリア教育の強化」を掲げています。その一方で、学生の在籍数に占める留学生の割合は博士後期課程の約3分の1、修士課程の約4分の1となっており、留学生向けの英語によるキャリア支援は重要な課題となっています。I-HoPでは、大学院留学生の日本でのキャリアパスを広げるため、就職支援やトランスファラブルスキル強化など、英語による多様なプログラムを展開しています。

（大学院教育推進機構先端人材育成センター）



深澤代表取締役社長の講演を聞く留学生

## ■ 部局ニュース

### 経済学部成績優秀者表彰式を挙行

6月29日（木）、経済学研究院研究棟にて、「経済学部成績優秀者表彰制度」による表彰式を行いました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度1年間の履修科目において優秀な成績を修めた学生の中から、学部長が学生の模範となるような成績優秀者を選考・表彰するとともに、Dean's List

（成績優秀者名簿）に登載し、末永くその努力と名誉を讃えることを目的としています。本年度は3年次学生10名、4年次学生10名の計20名が選出されました。

表彰式では、久保田肇経済学部長から対象者へ表彰状と副賞が手渡され、祝福の言葉が述べられました。

経済学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取り組みを行っていく予定です。

（経済学部）



本年度の受賞者

# 先端生命科学研究院ソフトマター国際連携ユニット (SMCR) がLeNetキックオフシンポジウムを開催

6月9日（金）、先端生命科学研究院の龔 劍萍（グンチェンピン）教授ら研究グループは、対面・オンラインのハイブリッド形式で、LeNetキックオフシンポジウムを開催しました。

グン教授らは令和4年12月から、日米欧のチームで国際共同研究「低エントロピー高分子網目材料の設計と機能創出（通称LeNet）」を行っています。本研究は、科学研究費助成事業・国際先導研究に採択されています。

長い鎖のような高分子が網目状になると、ゴムやゼリーのような柔らかい物質ができます。このような物質は、高分子の鎖がたるんだ「高エントロピー状態」になっています。一方で本研究では、高分子の鎖が伸び切った物質「低エントロピー高分子網目材料（Low entropy polymer network、

LeNet）」に注目しています。鎖を伸ばすことで高分子の化学的個性を発現させ、思いもよらないような機能を物質に持たせることが出来ます。

今回のLeNetキックオフシンポジウムでは、共同研究の紹介のほか、LeNetとは何か、その力学的・機能的面白さはどこにあるのか、SMCR北大ユニット教員4名と、アメリカユニットのStephen Craig教授（デューク大学）、及びフランスユニットのCostantino Creton副学長（ESPCI Paris-PSL）のオンライン講演により、合成・解析・機能など多様な切り口で紹介が行われました。

午前・午後の部を合わせて延べ105名の参加があり、研究者のほか、本学生命科学院ソフトマター専攻の学生も多く来場しました。最新の研究動向に

関する講演を介して、議論や質疑応答が行われ、今後の国際共同研究への新たな可能性が期待される、良い機会となりました。

LeNetでは、プロジェクトに興味のある博士課程学生・ポスドクを広く募集中です。研究期間中は海外拠点に長期滞在し、日本・海外両拠点からの指導を受けながら、世界トップレベル研究に携わることができます。ご応募をお待ちしています！

## 【関連リンク】

科学研究費助成事業国際先導研究  
低エントロピー高分子網目材料の設計と機能創出 -LeNet-  
<https://www.low-entropy-network.com/>

（生命科学院・先端生命科学研究院）



対面会場（北キャンパス総合研究棟7号館）でプロジェクトについて紹介するグン教授



対面会場での参加者の様子

## 環境健康科学研究教育センター、保健科学研究院がHSI関連イベント「WHOオフィサーと語る～地球の未来とSDGs～」を開催

環境健康科学研究教育センターと保健科学研究院は、6月4日（日）に医学部百年記念館において、Hokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）関連イベント「WHOオフィサーと語る～地球の未来とSDGs～」を開催しました。

本イベントでは、世界保健機関（WHO）のAsia-Western Pacific Centre for Environmental and Health in the Western Pacific Regionのセンター長であるAkeem Ali博士を招き、4つの講演と学生を質問者とした質疑応答を行いました。

高橋 彩理事・副学長からの挨拶の後、本学に認定されている2つのWHO研究協力センター（WHOCC）について、保健科学研究院の池田敦子教授から「環境化学物質による健康障害の予

防に関するWHOCC」、人獣共通感染症国際共同研究所の高田礼人教授から「人獣共通感染症対策に関するWHOCC」の活動を紹介しました。続いてFuture Earth日本委員会事務局長でもある、環境健康科学研究教育センター長の山内太郎教授よりFuture Earthが紹介され、最後にAli氏がWorld Health Organization Western Pacific Region Climate Change and Environmentと題して、SDGs達成に向けて、西太平洋地域が有する気候変動や環境課題と、WHOが果たしている役割と活動に関して講演しました。

質疑応答では、本学医学部医学科及び保健学科の学生3名と札幌開成中等教育学校、旭川明成高等学校の各1名が代表質問者となり、環境問題や新型コロナウイルスの感染拡大がSDGs達

成に与えた影響、さらには国際人としてのキャリア形成などについてAli氏と語り合いました。

当日は北大祭開催日であったこともあり、小学生を含む老若男女問わず100名近くの方が聴講しました。アンケートの結果では、「興味深く学びが多かった」「WHOとSDGsとの関わり、北大の取り組みがとても分かりやすかった」等、大変満足度の高いイベントとなりました。

今後もこのようなイベントを通じて、地球環境について市民の皆さんと共に考える機会を設けていきたいと思えます。

（環境健康科学研究教育センター・保健科学研究院）



発表を聴く聴講者



代表質問に応えるAli博士



終了後に談話する質問者とAli博士



講演後の集合写真

## 令和5年度国公立大学歯学部長・歯学部附属病院長会議等を開催

6月1日（木）・2日（金）の両日、本学が当番大学となり、京王プラザホテル札幌を会場として、令和5年度国公立大学歯学部長・歯学部附属病院長会議等を開催しました。

歯学部を有する全国12の国公立大学から、関係する学長、学部長、病院長、副病院長及び事務部門の長等57名が出席しましたが、コロナ禍のため令和2年度からはオンラインでの開催となっており、対面での開催は4年振りとなります。

1日（木）午前の歯学部附属病院長会議では、令和5年度国・公・私立大学歯学部附属病院「医療事故防止のための相互チェック」の実施等について協議が行われました。

同日午後には開催された歯学部長・歯学部附属病院長会議では、まず文部科学省高等教育局医学教育課の菊池博之

課長補佐から、「歯学教育の現状と課題」及び「大学病院を取り巻く諸課題について」と題して、令和5年度予算、歯学教育の改善・充実及び新型コロナウイルス感染症への対応等について、説明及び情報提供が行われるとともに、教育のための献体の管理に関する適切な対応の徹底等の要請や、大学病院における患者情報の漏えい等への注意喚起がありました。

次に厚生労働省医政局歯科保健課の小椋正之課長から、オンラインにより「歯科保健医療の動向について」と題して、令和6年度に控えた、学生が臨床実習開始前に修得すべき知識及び技能を有しているかを評価するための「共用試験」の公的化や、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）について説明がありました。

続いて行われた協議では、人体系統

解剖学実習の管理状況等、入学志願者状況及び国家試験対応といった歯学領域を取り巻く諸問題について、提案大学からの現状報告の後、対面での開催ならではの活発な議論が行われました。

また、会議終了後に開催された懇親会では、本学から寶金清博総長及び渥美達也北海道大学病院長も出席のうえ、ユーモアに富んだ心温まる挨拶があった後、網塚憲生歯学部長の発声による乾杯が行われ、出席者は久々の対面での開催に喜びを感じながら、有意義な情報交換が行われました。

2日（金）午前の国公立大学歯学部長・歯学部附属病院長会議懇談会でも、前日の議論の余韻冷めやらぬ活発な意見交換が行われました。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



会議の様子



議事進行を行う網塚歯学部長（中央）及び佐藤嘉晃副病院長（左）



文部科学省医学教育課の菊池課長補佐による説明



懇親会での寶金総長の挨拶

## ボゴール農科大学開催のIPB Job Fair 2023 に Hokkaido University Indonesia Front Officeが参加

6月3日（土）、4日（日）に、インドネシア共和国のボゴール農科大学（IPB大学）のGEDUNG GRAHA WIDYA WISUDA IPBで、「IPB Job Fair 2023」が開催されました。このJob Fairは4年ぶりの対面開催となり、34社の会社と教育機関が参加しました。北海道大学は、Hokkaido University Indonesia Front Office（以下FO）として参加しました。

イベントは2日間にわたり、IPB大学

及び周辺の大学から約3,000人の学生が来場しました。FOのブースには、多くの学生らが北海道大学への交換留学プログラム（HUSTEP、PARE、Hokkaidoサマー・インスティテュート）、北海道大学への留学、英語で実施されるコース、奨学金、北海道での生活について相談に来られました。

今回のIPB Job Fairは、北海道大学アンバサダーであるIPB大学のハニー・C・ウイジャヤ教授を中心に、5名の現

地の学生ボランティアが企画・運営しました。そのうち、2名は北海道大学PAREプログラムへの参加経験があることから、北海道と北海道大学についてより詳しく参加者に説明することができました。

IPB Job Fair 2023の様子は、FOのInstagramにもアップされています。

（農学院・農学研究院・農学部）



ブースの様子



参加者に説明している様子

## 農学研究院で第14回Sapporo Alumni Lecturesを開催

農学研究院では、一般社団法人札幌農学同窓会と共に、6月23日（金）、本学の学生及び教員と同窓生を対象とした第14回Sapporo Alumni Lecturesを、対面とオンラインで同時開催しました。本講演会は、社会の第一線で活躍する本学農学部卒業生を招いて学生に向けて講話いただくもので、学生時代に農学部で学んだこと、また農学部を卒業して今日までの様々な経験、そこから得たものを語ってもらい、学生の今後の学びや将来の目標を考える機会にしようことを目的としています。

今回は株式会社クボタ機械統括本部顧問（北海道大学客員教授）の別所智博氏をお招きして開催しました。

玉井 裕教授の司会のもと講演会が始まり、冒頭で野口 伸研究院長より、本講演会の趣旨について触れながら開会の挨拶があり、続いて別所氏の紹介がありました。別所氏からは、「世界と日本の食料安全保障について」と題して講演いただきました。

別所氏は、本学に入学後、農学部生物機能化学科の前身である農学部農芸化学科に移行し、土壌学講座（現土壌学研究室）で学ばれました。学部卒業後は農林省に勤務、オーストラリア留学（修士学位取得）、新潟県出向等を経ながら、土壌汚染対策、コメの生産調整、植物検疫、東日本大震災対応、スマート農業など国内外の農業諸問題に取り組んでこられました。

講演ではまず、グローバルな食料安全保障として、世界的な食料需給の現状について触れ、次いで食料安定供給に対するリスク、食料安全保障の確保と状況悪化そしてその危機感について話が進みました。次に日本にとっての食料安全保障について、その基本的な考え方から、食料自給率の向上、食料安全保障をめぐる情勢の変化について触れられ、食料安全保障を確かなものにするために、法律や関連制度の見直しが進められようとしていると述べられました。そして、次世代の学生たち

への呼びかけとして、「食料安全保障には沢山の切り口があり（農業、食品産業、地球環境、社会の在り方、個人のライフスタイル、国際協力など）、技術・個人・社会が連携した好循環によって、食料・農業・環境の持続性を高めることができる、21世紀を担う皆さんの活躍の場です!」と結ばれました。

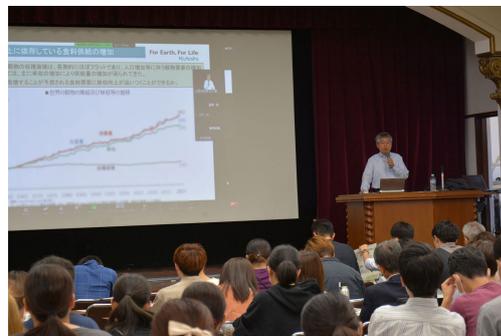
最後に、一般社団法人札幌農学同窓会の松井博和理事長から、講演者別所氏への謝辞が述べられ、講演について振り返るとともに、学生へ今後の期待や激励の言葉が贈られました。

今回のSapporo Alumni Lecturesでは、本学農学部卒業生を代表する別所氏に貴重なご講演をいただき、参加された多くの学生にとっても大変有意義な機会となりました。卒業生の別所氏には貴重なお話をいただき、改めて感謝申し上げます。

（農学研究院）



講演する別所氏



講演する別所氏と大講堂の様子

## 水産学部附属練習船「おしよろ丸」北極航海へ出港

水産学部では、6月8日（木）に函館港で附属練習船「おしよろ丸」北極航海の出港式を行いました。

5年ぶりとなる北極航海は、水産学部の学生のほか、修士・博士論文に関連した観測及びデータ収集を目的とする大学院生が乗船します。大学院生は、水産科学院のほか、大学間交流協定を締結しているアラスカ大学フェアバンクス校など国内外から参加します。

本航海の後半では、文部科学省北極域研究加速プロジェクト（ArCS II）重点課題①人材育成・研究力強化に基づき、全国の学部学生を対象とした公開実習を初めて実施します。

公開実習には、国立・私立大学から文系学部を含めて10名の実習学生が乗

船し、自然科学系の海洋観測を行うだけでなく、北極圏の歴史や文化も学ぶ予定です。また、学生のほか、ArCS IIに参加する学内外の研究員も参加し、調査・研究活動を進めます。

おしよろ丸は、函館港から出港し、途中、米国アラスカ州のノームに2回寄港しながら、北極海の北緯70°付近（チャクチ海）まで航行し、北太平洋、ベーリング海、北極海のフィールドで実習や各種海洋・生態系調査を実施します。

出港式では、都木靖彰水産学部長から5年ぶりの北極航海実施の喜びと、航海が事故無く成功裏に終わることを祈念するとともに、本航海に大きな支援をいただいたArCS IIへの謝意が述

べられ、「今回参加される皆さんには、帰港後、本航海の貴重な経験を周りに伝えて欲しい」と挨拶がありました。次いで学生代表として水産科学院修士課程1年の北村もあなさんが「今回の北極航海を通じ、現場観測を経験することで、データの見方に新たな視点が加わるのではないかと期待している。船内での生活を共にする皆さんと語り合い、一生の思い出を作りたい。行ってきます」と元気に挨拶し、学生、友人、家族ら約200名が見送る中、57日間の長い航海へ向かいました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



挨拶を述べる都木水産学部長



学生代表挨拶を務めた北村さん



札幌から駆けつけたエールを送る応援団の坪井 望団長



大勢に見送られ出港

## 環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催

環境科学院では、6月4日（日）に北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催し、延べ321名が来場し各ブースは大変賑わっていました。保育園児や小学生の親子連れ、その他一般の方が訪れ、幅広い年齢層の方に環境科学に関する研究をアピールする良い機会になりました。

今回の企画の内容は、「環境科学を体験しよう」と題して環境サイエンス

パフォーマンス6件と2件の展示を行いました。鈴木カップリングを使った蛍光色素の合成を実演した「光るものを作ろう！」や-196℃の液体窒素に、風船や野菜などの身近なものを漬け込んでもらい、日常では体験できない極低温の世界を体感する「液体窒素でつくる極低温環境の世界」など環境科学の実験を体験するブースが人気でした。

来場者にアンケート調査を実施した

ところ、「とても面白かった。説明してくれる方の熱意に感動した」「子供に科学や研究に興味を持たせるのに非常に良い。来年も開催してほしい」などの高い評価をいただきました。

今後とも、アンケートの結果を踏まえ、より多くの方々に楽しんでいただけるよう工夫してまいります。

（環境科学院）



実験を見学する来場者



深海底の化石について説明を受ける来場者

## メディア・コミュニケーション研究院が中国・河北大学と初の学術会議を開催

メディア・コミュニケーション研究院及び、教育を担当する国際広報メディア・観光学院は6月9日（金）、本学を訪問された中国・河北大学新聞伝播学院（日本語訳：ジャーナリズム・コミュニケーション学院）代表団と初の学術会議を開催しました。

河北大学からは韓立新院長をはじめ代表団6人が来訪しました。本研究院の奥聡院長らとの学術会議で、奥・韓両院長は、両学院についてそれぞれ紹介し、学術交流の可能性について意見交換しました。その上で、韓院長からは、日本・中国・韓国3カ国の

ジャーナリズム大学院によるシンポジウムの開催にあたり、本学の参加について提案があり、本研究院側も検討していくことになりました。

学術会議終了後、遠友学舎に場所を移し、国際広報メディア・観光学院で学ぶ中国人博士・修士課程学生も交えた交流会を開き、懇親を深めました。この中で韓院長による「ジャーナリズム研究の実践ロジック」と題したミニ講演会も実施しました。

今回の学術会議・交流会は、河北大学新聞伝播学院の葛旭専任講師が国際広報メディア・観光学院で学び、博

士学位を取得したことから実現しました。交流会では葛氏からも、本学院で学んだ日々についてスピーチがありました。

本研究院は5月20日（土）に中国人民大学新聞学院と国際学術研究会を開催しており、コロナ禍でストップしていた中国の大学とも学術交流を再開しています。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）



河北大学新聞伝播学院の韓院長（左から2人目）ら代表団との学術会議の様子

# 「見て、聞いて、触って楽しむ最先端科学」 研究所・センター等合同で一般公開を開催

低温科学研究所、電子科学研究所、  
遺伝子病制御研究所、触媒科学研究所、  
スラブ・ユーラシア研究センター、  
創成研究機構化学反応創成研究拠点  
(WPI-ICReDD)、創成研究機構グロー  
バルファシリティセンター (GFC)

は、北大祭開催中の6月3日(土)に合  
同で一般公開「見て、聞いて、触って  
楽しむ最先端科学」を開催しました。  
悪天候にもかかわらず子供から大人ま  
で多くの人々が訪れ、延べ人数は約  
2,800名に上りました。



クリーンルームで研究者(左)の解説に  
耳を傾ける来場者たち(電子科学研究所)

## 低温科学研究所「低温の不思議な世界を探検しよう！」

子供連れの家族、学生、社会人など  
700名以上が来場しました。会場では、  
氷河・オホーツク・PM2.5など寒冷圏  
の環境に関する展示、シャボン液の表  
面に氷結晶を作る実験、試薬を用いた  
黄葉の仕組みの実験、ペットボトルの

過冷却水が一気に凍りつく実験のほ  
か、マイナス50℃の低温室で極地環境  
を体験する企画を実施しました。どの  
企画も、担当者の説明に熱心に耳を傾  
ける来場者や実験に夢中で取り組む子  
供達で賑わい、「水について色々勉強

になった」、「環境への興味が深まっ  
た」、「初めて体験する寒さで面白かつ  
た」などの感想が寄せられました。当  
日は、テレビ局1社が訪れ、会場の様  
子がニュース番組で紹介されました。

## 電子科学研究所「光・物質・生き物・数理・環境のふしぎを体験しよう！」

道内のみならず全国各地から750名以  
上が来場しました。アメーバやミドリ  
ムシといった原生動物を顕微鏡で観察  
するコーナーや、水分子の表面張力と  
界面活性剤の表面張力を弱める性質を  
活かして動かす「はみがき粉ポート」

の工作など11の体験ブースを用意した  
ほか、「昆虫の感覚と行動に学ぶ」と  
題したサイエンストーク、一般公開で  
は初となるクリーンルームの見学ツア  
ーを実施しました。アンケートでは来  
場者の9割以上が「一般公開をとて

楽しめた・楽しめた」「科学の面白さ  
をとて感じられた・まあまあ感じら  
れた」と回答しました。報道機関3社  
が訪れ、テレビや新聞でも取り上げら  
れました。

## 遺伝子病制御研究所「はたらく細胞から病気の仕組みを知ろう」

小学生から大人まで、全国各地から  
多くの参加者が訪れました。現場で活  
躍している研究者がそれぞれの研究内

容を紹介するポスターコーナー、各ポ  
スターに記載されたクイズに答えて賞  
品を獲得するクイズラリー、小さな生

き物(線虫など)を顕微鏡で観察する  
コーナーでは、多くの来場者が研究  
者との交流を楽しんでいました。

## 触媒科学研究所「小学生でもできる!化学マジック」

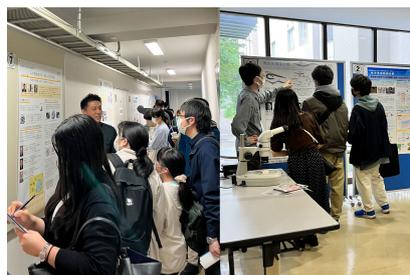
小学生を中心に多くの来場者があ  
り、9:30~16:00の間、休む間もなく

「化学反応」の実験を来場者と共に行  
いました。サイエンストークでは「フ

ードロスを減らす触媒」に関して講演  
をしました。



化学マジックに挑戦(触媒科学研究所)



賑わうポスターコーナー(遺伝子病制御研究所)



南極の氷が融ける音を聴く(低温科学研究所)

スラブ・ユーラシア研究センター「知られざるスラブ・ユーラシア」

悪天候にも関わらず449名が来場しました。スタッフやゲストによるサイエンストーク「知られざるウクライナと日本との出会い(1900-1948)」「作家ゴーゴリの知られざる故郷」は、併

せて70名以上が聴講しました。サイエンストークと連動させたパネル展、スラブ・ユーラシア地域の民族衣装・工芸品の展示、体験コーナー「キリル文字ってどんな文字?」「モンゴルのシャ

ガイ(くるぶしの骨)占い」、シルクロードのDVD上映など、大人から子供まで楽しめるコンテンツを用意し、アンケートではいずれも高評価をいただきました。

化学反応創成研究拠点(WPI-ICReDD)「ワクワクする化学反応の世界をのぞいてみよう！」

「どんな形をしてるかな?コンピューターで分子を作ってみよう」、「スライム作りにチャレンジ!」の二つの体験ブースを用意したほか、サイエンストーク「現代の魔法?光り輝くバケガクの世界」を実施しました。体験ブー

スでは、特にスライム作りが子供たちに人気で、小学生を中心に約250名がスライム作りを行うなど、多くの方が楽しんで化学を体験しました。また、サイエンストークでは魔法使いの衣装をまとった長谷川靖哉教授が、映画や

アニメの世界など、身近な話題を例に取りながら化学の面白さを伝え、子供から大人までが楽しめる講演となりました。



多くの人が聴講したサイエンストーク (WPI-ICReDD)



多くの人が聴講したサイエンストーク (スラブ・ユーラシア研究センター)

創成研究機構グローバルファシリティセンター(GFC)「ものづくりの秘密基地—大学の研究を支える技術体験」

本格的な一般公開は3年ぶりとなりましたが、300名を超える方にご来場いただきました。当日は、実際に大学の研究で使われている3Dプリンターやレーザーカッターが動いているとこ

ろ、電子工作を通して、大学の研究を支えるものづくり技術を体験して頂きました。電子工作は、予想を上回る希望があり、途中で用意していた部品が足りなくなるなど大盛況となりまし

た。大勢の子供たちが食い入るように動いている機器を見るなど、技術と物を作る面白さを体験してもらう良い機会となりました。



3つのブースを楽しむ来場者たち (GFC)

(低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、触媒科学研究所、スラブ・ユーラシア研究センター、創成研究機構化学反応創成研究拠点(WPI-ICReDD)、創成研究機構グローバルファシリティセンター(GFC))

## 第3回 北の森林サイエンスCAFE-地域の人々が集う化学反応の場所へ

5月20日（土）に、北方生物圏フィールド科学センター北管理部（名寄市）の主催で、「北の森林（きたのもり）サイエンスCAFE」を開催しました。今回で3回目となるサイエンスCAFEには、過去最多の27名が参加しました。近隣市町村のみならず札幌や十勝地方からも参加者があり、着々と本企画の認知度が上がっていることを実感しています。

イベントでは、まず本センターの福澤加里部准教授から「人と川とササとー脇役が担う森のはたらき」という演題で講演がありました。その後、道北地域でササなどを材料として制作活動している作家・かごあみ<sup>いと</sup>絲さんから「かご編む暮らしを編む」というテーマで話題提供がされました。

福澤准教授の講演では、ササの知ら

れざる生態について紹介があった後、木に比べて脇役として見られがちなササが果たしている水質維持などにおける重要な役割について話がありました。絲さんからは、そうしたササという生物を材料として見た時の特徴についてや、ササを使った制作活動をビジネスとして行なっていく上でのビジョンなどについて写真を交えながら紹介がありました。絲さんは、かごを編む際に使っているササを割いたものや、素敵な作品を多数会場へ持参してください、参加者たちは講演が終わった後も、実物を手にしながら歓談しているのが印象的でした。森の植物の研究者と、それらを生業へ利用している作家さんに同時に登壇していただくスタイルとすることで、これまでは無い化学反応が起きることを期待して行っ

きた本イベントですが、企画者の予想以上に、多様なジャンルの方が様々な目的で交流をするために集まる場となっています。森を題材に、研究者と利用者が語り合うこのような教育イベントは、両者の「現場」となる森に近い場所に大学の地方施設があるからこそ開催できるものです。参加者からアンケートを通じて寄せられた次回に題材として希望するテーマにはユニークなものもあり、次のサイエンスCAFEはどんな内容とするか今から考えるのが楽しみです。

今後も、北管理部は、北の森林を学び、社会へその魅力や重要性を伝える市民に開けた場所として、様々な企画を考えていきます。

（北方生物圏フィールド科学センター）



福澤准教授の講演の様子



絲さんとのクロストークの様子



事務職員、技術職員による挽きたての豆で淹れたコーヒーサーブ



満員御礼の会場

# 観光学高等研究センターが「さっぽろラウンドウォークオープン記念シンポジウム」を開催

観光学高等研究センターは、6月4日（日）に学术交流会館において、「さっぽろラウンドウォークオープン記念シンポジウム」を開催しました。観光学高等研究センターは、平成29年～平成30年に「歩く滞在交流型観光の新展開」をテーマとする観光創造研究会を発足させ、歩くことを目的とした滞在型観光地の在り方を議論しました。これをきっかけに平成31年～令和3年には札幌市の観光客の滞在日数が短いことに着目し、北海道における「フットパス」普及活動を展開するエコ・ネットワーク及び札幌市経済観光局観光・MICE推進部と歩調を合わせ「札幌市における産官学連携による、歩く滞在交流型観光の実装化に関する研究会」を続けてきました。

これらの研究会の具体的な成果として「さっぽろラウンドウォーク」という札幌市を周遊する140km超の歩く道を提案するに至り、実現に向けて令和

2年から実地調査を開始。コースの設定、普及、発展を通じて、歩く文化の醸成を図ることを目的とした「NPO法人ウォークラボ札幌」を立ち上げました。本学発のNPOとして研究と実践を重ねた結果、同日「さっぽろラウンドウォーク」のオープニングに至り、これを記念してシンポジウムの開催に至りました。

シンポジウムに先立ち、「さっぽろラウンドウォーク」のお披露目記者会見が行われ、研究会及びNPOが制作を進めてきた25,000分の1A0版4部構成のマップ、地図を持たずに歩けるスマートフォン用アプリケーションを披露しました。

シンポジウムでは、観光学高等研究センターの木村 宏教授が「『さっぽろラウンドウォーク』の概要とこれまでの軌跡」と題し基調講演し、後半はパネルディスカッションに移り、国際広報メディア・観光学院の履修証明プロ

グラム「デスティネーションマネージャー育成プログラム」修了生の奥田 萌さんのファシリテートのもと「歩く観光の可能性について」をテーマに、街歩き研究家の和田 哲さん、エコ・ネットワーク代表の小川 巖さん、木村教授がパネルトークし、これからの札幌市の街歩きなどについて意見を交わしました。意見交換する中で、札幌市の魅力がまだ観光客や市民に十分伝わっていない、歩く目線で札幌市をぐるりと歩いて多くの感動と発見を体感してもらいたいと3人の認識が一致しました。

シンポジウム終了後には、実際に「さっぽろラウンドウォーク」を歩いてみよう、と、30名程の参加者と、石山緑地周辺のコース、約5kmを歩く会も催されました。

（観光学高等研究センター）



シンポジウムに先立って行われた記者会見の様子



基調講演に耳を傾ける会場の皆さん



パネルディスカッションの様子



午前中のシンポジウムに続き午後には30名程がさっぽろラウンドウォークを楽しみました

## ■ 博士学位記授与

6月30日（金）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は25人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は3人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

### 課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（水産科学）	チン ジュカ 陳 樹河		<i>Pseudomonas</i> sp. Go58 isolated from water-plant biofilm, genome analysis and preliminary study on its algicidal function (水草バイオフィルム由来 <i>Pseudomonas</i> sp. Go58のゲノム解析および殺藻活性に関する基盤的な研究) 主査：教授 栗原 秀幸
博士（理学）	かなもと よしひろ 金本 吉泰		生物教育におけるコンピテンシーの育成に関する基礎的研究：特に「生命観」に着目して 主査：教授 重田 勝介
	ケビン ラリオア Kevin Lariosa ギャラス Garas		Influence of East Asian Monsoon and El Niño Southern Oscillation (ENSO) to Holocene Hydroclimate deduced from Northwest Pacific corals (完新世のサンゴ骨格記録を用いた東アジアモンスーンがENSOに与える影響の解明) 主査：教授 沢田 健
	ジョ ウンゴウ 徐 云遼		Influence of laminated random heterogeneity on surface wave dispersion and radial anisotropy (ラミナ状ランダム不均質性による表面波分散性及び鉛直異方性への影響) 主査：教授 吉澤 和範
博士（農学）	いがらし かずひで 五十嵐 和秀		画像解析を用いた濁水監視による土石流検知手法に関する研究 主査：教授 山田 孝
博士（生命科学）	マリyam Mariam エルセマン エブラヒム Elseman Ibrahim アブドラソール Abdelrasoul		Design and evaluation of novel biomimetic molecules with potential pharmaceutical applications (医薬品応用を指向した新規バイオミメティック分子の設計とその評価) 主査：教授 門出 健次
博士（教育学）	チン ショウ 陳 勝		貧困当事者が語る「貧困とはなにか」—参加型貧困調査を通じて— 主査：特任教授 松本 伊智朗
博士（理学）	ガオ ヤナン GAO Yanan		Mechanistic Study on Lithium-Oxygen Battery-Degradation Mechanism in TEGDME Solution by Mass Spectrometry (質量分析によるTEGDME溶液中のリチウム酸素電池の劣化メカニズムに関する機構的研究) 主査：教授 村越 敬
	フアン シアオユウ HUANG Xiaoyu		Composition Engineering of Lead-free Double Perovskite Nanocrystals for Self-powered Photodiodes (セルフパワーフォトダイオード創製を指向した非鉛系ダブルペロブスカイトナノ粒子の化学組成工学) 主査：教授 村越 敬
博士（経営学）	オニエネケ ONYENEKE ゲチンティ GECHINTI ビード BEDE		Cultural diversity in workgroups: Shedding light on its effects and the roles of leadership (ワークグループの文化的ダイバーシティ：ダイバーシティの効果とリーダーシップの役割に関する検討) 主査：教授 坂川 裕司
博士（医学）	きむら しょうご 木村 将吾		E3ユビキチンリガーゼTRIM27の機能と、鼻副鼻腔粘膜悪性黒色腫における発現の臨床病理学的解析に関する研究 (Studies on the function of E3 ubiquitin ligase TRIM27, and clinicopathologic analysis of its expression in sinonasal mucosal melanoma) 主査：教授 松野 吉宏

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（医学）	くしや ひろき 櫛谷 洋樹	増殖型レトロウイルスシステムを用いた肺癌に対するプロドラッグ活性化遺伝子治療に関する研究 (Strategy for prodrug activator gene therapy of lung cancer by retroviral replicating vector) 主査：教授 松野 吉宏	
	くぼ まりな 久保 茉理奈	表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍（superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors : SNADETs）のエンドサイトスコピー画像のコンピューター解析と治療介入のためのアルゴリズム構築 (Computer analysis of endocytoscopic images of superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors and establish of algorithm for therapeutic intervention) 主査：教授 平野 聡	
	こいけ よしなお 小池 良直	脊柱後縦靭帯骨化症の遺伝学的研究 (Genetic study for ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine) 主査：教授 近藤 英司	
	こんどう たかふみ 近藤 享史	肝芽腫におけるDNAメチル化解析に基づく新規リスク層別化モデルの検討 (Study on the novel risk stratification model based on DNA-methylation analysis for Hepatoblastoma) 主査：教授 平野 聡	
	シェン ウェイドン SHEN Weidong	抗腫瘍エフェクター細胞の誘導におけるNK2Rの役割に関する研究 (Studies on the role of NK2R in the induction of anti-tumor effector cells) 主査：教授 清野 研一郎	
	すずき かよ 鈴木 佳代	非感染性ぶどう膜炎に対する新規治療標的の検討 (Examination of novel therapeutic targets for non-infectious uveitis) 主査：教授 氏家 英之	
博士（獣医学）	オウ エンリン 王 延璘	Structure-related Effects of Pentosan Polysulfate Sodium: Modulation on Phenotypic Change and Chondrogenic Properties in Canine Chondrocyte <i>in-vitro</i> Cultures (ポリ硫酸ペントサンの構造と効果発現に関する研究：培養軟骨細胞における形質維持と軟骨分化能の調節) 主査：教授 木村 享史	
	ムワレ キャロル MWALE Carol	Chondrotoxicity of local anesthetics: <i>In vitro</i> effects of local anesthetics on cell viability and apoptosis in cultured canine articular chondrocytes (局所麻酔薬の軟骨毒性に関する研究：培養軟骨細胞における局所麻酔薬の細胞障害性とアポトーシスについて) 主査：教授 木村 享史	
博士（医理工学）	ダム ディンスレン DAMDINSUREN ガントゥムール Gantumur	Production cross sections of medical radioisotopes <sup>52g</sup> Mn and <sup>198g</sup> Au via charged-particle-induced reactions (荷電粒子入射反応による医療用放射性同位体 <sup>52g</sup> Mn及び <sup>198g</sup> Auの生成反応断面積) 主査：教授 合川 正幸	
博士（獣医学）	たけうち ひろと 竹内 寛人	Research for elucidation of immune evasion mechanisms and development of a novel immunotherapy for cancer in dogs (イヌ腫瘍における免疫回避機構の解明と新規治療法の開発に向けた臨床研究) 主査：教授 鈴木 定彦	
博士（文学）	イチノセ シンペイ 一瀬 真平	Literary Fathers and Sons: Charles Dickens, Mark Twain, Sherwood Anderson, and Paul Auster (文学の父子：チャールズ・ディケンズ、マーク・トウェイン、シャーウッド・アンダソン、ポール・オースター) 主査：教授 竹内 康浩	
	シヨウ カヨ 肖 禾子	村上春樹文学における物語の研究 主査：教授 中村 三春	
博士（工学）	トウ カンキツ 陶 咸吉	A study on Enhancing Efficiency of IPMSM Adopting Concentrated Winding Structure 集中巻を用いた永久磁石同期モータの高効率化に関する研究 主査：教授 五十嵐 一	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（食資源学）	ヨウ リュウ 楊 柳	Research on Microplastics in Marine Life in the Coastal Areas of Japan (日本近海におけるマリンライフ中のマイクロプラスチックの研究) 主査：教授 松石 隆

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（保健科学）	にしはた ゆか 西端 友香	抗原の変化が抗好中球細胞質抗体や抗糸球体基底膜抗体の検出と自己免疫病態に及ぼす影響 主査：教授 山口 博之
博士（医理工学）	やまだ たかひろ 山田 貴啓	動体追跡陽子線治療における照射ログファイルを用いた実績線量評価に関する研究 (Studies on Evaluation of Actual Dose Distributions Utilizing Log Data in Real-time-image Gated Proton Therapy) 主査：准教授 高尾 聖心
博士（感染症学）	ルーディアネクシン RUDEEANEKSIN ジャニサラ Janisara	Molecular characteristics of drug-resistant <i>Mycobacterium tuberculosis</i> in Thailand (タイにおける薬剤耐性結核菌の遺伝学的特性) 主査：教授 鈴木 定彦

# 表敬訪問

## 海外

年月日	来訪者	来訪目的
5.5.31	南京大学（中華人民共和国） Zhe-Min Tan 学長	今後の交流に関する懇談
5.6.6	北京科技大学（中華人民共和国） Wunan Huang 副学長	今後の交流に関する懇談
5.6.15	華南理工大学（中華人民共和国） Xichun Zhang 党委書記	今後の交流に関する懇談
5.6.23	駐日ネパール大使館 Durga Bahadur Subedi 特命全権大使	今後の交流に関する懇談
5.6.26	在ザンビア日本国大使館 竹内 一之 特命全権大使	今後の交流に関する懇談
5.6.28	メルボルン大学（オーストラリア連邦） Michael Wesley 理事	今後の交流に関する懇談
5.6.29	全南大学校（大韓民国） Eun-il Kim 副学長	今後の交流に関する懇談
5.6.29	駐日欧州連合代表部 Jean-Eric Paquet 代表・特命全権大使	今後の交流に関する懇談及び講演会



Zhe-Min Tan 南京大学学長（左から5人目）



Wunan Huang 北京科技大学副学長（中央左）



Xichun Zhang 華南理工大学党委書記（左から6人目）



Durga Bahadur Subedi 駐日ネパール特命全権大使（左から3人目）



竹内 一之 駐ザンビア日本国特命全権大使（中央右）



Michael Wesley メルボルン大学理事（右から2人目）



Eun-il Kim 全南大学校副学長（左から11人目）



Jean-Eric Paquet 駐日欧州連合代表部代表・特命全権大使（左から3人目）

（国際部国際連携課）

## ■人事

### 令和5年6月12日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【副理事】 (期間：令和6年3月31日まで)	村 山 明 宏	大学院情報科学研究院教授

### 令和5年6月14日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：令和7年6月13日まで) (期間：令和7年6月13日まで)	藤 井 裕 大 槻 博	北海道電力株式会社代表取締役会長、北海道経済連合会会長 北海道ガス株式会社代表取締役会長

### 令和5年6月17日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：令和7年6月16日まで)	土 屋 俊 亮	北海道副知事

### 令和5年6月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【課長・事務長・室長】 (任期満了)	小 幡 裕 幸	財務部主計課財務管理室長

### 令和5年7月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部長】 財務部長	加賀谷 次 朗	財務部長 (兼) 財務部主計課長
【課長・事務長・室長】 財務部主計課長 財務部主計課財務管理室長	今 泉 守 正 熊 谷 正 広	文部科学省大臣官房会計課財務企画班財務企画係長 (併) 国際課専門職 北洋銀行地域産業支援部管理役

## 新任副理事紹介

令和5年6月12日付

### 副理事に



むらやま あきひろ  
**村山 明宏 教授**

副理事として村山明宏教授が発令されました。

任期は、令和6年3月31日までです。

### 略 歴

生 年 月 日 昭和35年9月10日  
昭和58年 3月 東北大学工学部卒業  
昭和60年 3月 東北大学大学院工学研究科修士課程修了  
平成 7年 3月 東北大学大学院工学研究科博士課程修了、博士(工学)(東北大学)  
昭和60年 4月 } 旭硝子(現AGC)株式会社  
平成13年 1月 }  
平成13年 2月 東北大学科学計測研究所助教授  
平成13年 4月 東北大学多元物質科学研究所助教授(改組)  
平成19年 4月 東北大学多元物質科学研究所准教授(呼称変更)  
平成20年10月 北海道大学大学院情報科学研究科教授  
平成28年 4月 } 北海道大学大学院情報科学研究科副研究科長  
平成30年 3月 }  
平成29年 4月 } 創成研究機構副機構長  
令和 2年 9月 }  
平成29年 4月 } 北海道大学総長補佐  
令和 4年 3月 }  
平成31年 4月 北海道大学大学院情報科学研究院教授(改組)  
令和 2年11月~ 創成研究機構副機構長

新任部課長等紹介

令和5年7月1日付



財務部主計課長に

いまいづみ もりまさ  
今泉 守正 氏



財務部主計課財務管理室長に

くまがい まさひろ  
熊谷 正広 氏

平成21年 4月 文部科学省科学技術・学術政策局政策課  
 平成23年 4月 北陸先端科学技術大学院大学総務課  
 平成25年 4月 文部科学省大臣官房会計課用度班  
 平成26年10月 文部科学省大臣官房会計課用度班契約第二係主任  
 平成27年 4月 文部科学省大臣官房会計課監査班監査第一係主任  
 平成27年10月 文部科学省大臣官房会計課監査班監査第一係専門職  
 平成28年 2月 (併) 文部科学省大臣官房国際課専門職  
 平成28年 4月 文部科学省大臣官房会計課監査班監査第一係長  
 平成30年 6月 文部科学省大臣官房会計課総務班専門職  
 (国際教育交流担当職員長期研修プログラム(米国))  
 平成31年 4月 文部科学省大臣官房会計課用度班総括係長  
 令和 3年 4月 文部科学省大臣官房会計課財務企画班財務企画係長  
 令和 4年10月 (併) 文部科学省大臣官房国際課専門職  
 令和 5年 7月 北海道大学財務部主計課長

昭和45年 6月11日生  
 平成 5年 3月 室蘭工業大学工学部卒業  
 平成 5年 4月 北海道拓殖銀行琴似支店  
 平成10年 4月 北海道拓殖銀行岩見沢支店  
 平成10年11月 北洋銀行岩見沢中央支店  
 平成12年 4月 北洋銀行岩見沢中央支店主査  
 平成14年10月 北洋銀行岩見沢中央支店調査役  
 平成14年11月 北洋銀行釧路中央支店調査役  
 平成18年10月 北洋銀行すすきの支店課長  
 平成21年 8月 北洋銀行南郷通支店課長  
 平成25年 6月 北洋銀行融資第一部調査役  
 平成26年 6月 北洋銀行融資企画部調査役  
 平成27年 4月 北洋銀行融資企画部主任調査役  
 平成28年 4月 北洋銀行地域産業支援部調査役(国立大学法人室蘭工業大学出向)  
 令和 2年 4月 北洋銀行地域産業支援部管理役  
 令和 5年 7月 北海道大学財務部主計課財務管理室長

## 訃報

名誉教授 古市 隆三郎 氏  
(享年86歳)



名誉教授 古市 隆三郎 先生が、令和5年5月16日にご逝去されました。

古市先生は昭和12年北海道に生まれ、同34年北海道大学工学部応用化学科を卒業、旭硝子株式会社研究所に勤務後、同37年北海道大学大学院工学研究科応用化学専攻修士課程に入学、同42年同専攻博士課程を単位取得退学、同年北海道大学工学部助手に採用され

ました。同43年学位論文「含水酸化鉄の化学反応性に関する研究」により工学博士の学位を授与され、同年助教、同61年北海道大学工学部教授に任じられました。

学内においては、数多くの学生を指導されるとともに、留学生センター運営委員会委員、機器分析センター運営委員会委員、エネルギー先端工学研究センター運営委員会委員、大学院委員会委員、創基百二十五周年記念事業委員会出版等専門委員会委員、教務委員会委員、触媒化学研究センター協議委員会協議員を歴任され、特に平成7年から2年間評議員、同10年から2年間エネルギー先端工学研究センター長として本学の教育研究環境の充実のために尽力されました。

学外においては、日本化学会、日本分析化学会、日本工業教育協会の理事、日本分析化学会、表面技術協会、

電気化学協会の各北海道支部長などを歴任され、学術の発展に大いに貢献されました。また北海道地域技術振興センター・ニューセラミックス製造技術開発委員会委員として工業技術の発展のために尽力されました。

学術研究面では、無機工業化学、工業分析化学、機能材料化学の研究に従事され、とりわけ各種金属酸化物間の固相反応、固体触媒など固体の反応性に関する研究を展開、大いに発展させ、昭和45年日本化学会進歩賞、平成2年表面技術協会論文賞、同20年電気化学会功績賞を受賞されました。

ここに謹んで古市先生の学術研究発展と人材育成への貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

令和4年度卒業・修了者の就職等状況一覧

1. 就職等状況

学部

令和5年5月1日現在

	文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		医学部				歯学部		薬学部				工学部		農学部		獣医学部		水産学部		合計	
	人数(名) (うち女子)																													
(A) 卒業者数	183 (73)	61 (25)	205 (59)	205 (41)	322 (67)	119 (26)	183 (132)	58 (25)	47 (22)	29 (15)	695 (95)	209 (89)	41 (25)	201 (41)	2,558 (735)															
(B) 就職希望者数	147 (59)	38 (16)	149 (48)	172 (33)	58 (14)	1 (1)	106 (88)	0 (0)	3 (1)	24 (13)	106 (16)	34 (19)	30 (20)	41 (10)	909 (338)															
(C) 就職者数	131 (51)	35 (15)	137 (45)	166 (33)	47 (13)	1 (1)	99 (83)	0 (0)	2 (1)	24 (13)	97 (15)	30 (19)	30 (20)	37 (10)	836 (319)															
(内訳：道内就職者 有職者)	38 (21)	12 (5)	29 (12)	38 (9)	16 (6)	0 (0)	65 (56)	0 (0)	1 (0)	6 (3)	26 (3)	8 (5)	6 (4)	9 (1)	254 (125)															
(D) 就職率(%)	89.1 (86.4)	92.1 (93.8)	91.9 (93.8)	96.5 (100.0)	81.0 (92.9)	100.0 (100.0)	93.4 (94.3)	-	66.7 (100.0)	100.0 (100.0)	91.5 (93.8)	88.2 (100.0)	100.0 (100.0)	90.2 (100.0)	92.0 (94.4)															
昨年度の就職率(%)	87.2 (90.5)	97.0 (92.9)	95.3 (100.0)	97.6 (93.9)	72.5 (70.0)	-	96.9 (98.7)	-	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	94.3 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	90.0 (95.2)	93.8 (95.8)															
(E) 進学者数	27 (13)	14 (4)	45 (11)	19 (3)	250 (49)	1 (0)	68 (40)	0 (0)	43 (20)	5 (2)	568 (76)	162 (66)	7 (4)	156 (29)	1,365 (317)															
(内訳：大学院 本学進学者数 大 学 他)	27 (13)	13 (4)	45 (11)	19 (3)	250 (49)	1 (0)	63 (35)	0 (0)	43 (20)	4 (1)	568 (76)	162 (66)	7 (4)	156 (29)	1,358 (311)															
	[22] [(12)]	[11] [(3)]	[30] [(6)]	[17] [(3)]	[230] [(45)]	[1] [(0)]	[57] [(31)]	[0] [(0)]	[40] [(19)]	[2] [(1)]	[540] [(70)]	[149] [(59)]	[3] [(1)]	[144] [(27)]	[1246] [(277)]															
	[0] [(0)]	[1] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[5] [(5)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[1] [(1)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[7] [(6)]															
	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]															
	25 (9)	12 (6)	23 (3)	20 (5)	25 (5)	117 (25)	16 (9)	58 (25)	2 (1)	0 (0)	30 (4)	17 (4)	4 (1)	8 (2)	357 (99)															

※A=C+E+F・D=C÷B×100

※医学部医学科は卒業後2年間、歯学部は卒業後1年間の臨床研修期間がある。

修士課程

	法学 研究科		水産 科学院		環境 科学院		理学院		農学院		生命科学 科学院		教育学院		国際広報 メディア 観光学院		保健 科学院		工学院		総合 化学院		経済学院		医学院		医理工 学院		国際食 資源学院		文学院		情報科学院 情報科学 研究科		合計	
	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)																	
(A) 修了者数	14 (8)	113 (36)	154 (52)	108 (21)	171 (61)	121 (42)	38 (23)	27 (27)	51 (25)	362 (46)	161 (31)	35 (16)	20 (13)	10 (1)	16 (10)	85 (46)	177 (18)	1,673 (476)																		
(B) 就職希望者数	11 (7)	96 (30)	103 (32)	77 (15)	136 (49)	80 (33)	22 (14)	37 (17)	37 (19)	310 (37)	130 (28)	16 (7)	14 (9)	6 (1)	12 (8)	33 (14)	156 (16)	1,262 (336)																		
(C) 就職者数	7 (3)	95 (30)	101 (31)	76 (15)	132 (47)	76 (31)	14 (7)	16 (10)	35 (18)	308 (36)	124 (27)	14 (7)	14 (9)	6 (1)	12 (8)	28 (10)	153 (16)	1,211 (306)																		
(内訳：道内就職者 有職者)	1 (0)	8 (3)	25 (4)	19 (3)	22 (9)	8 (3)	5 (2)	2 (1)	14 (8)	22 (3)	9 (2)	1 (0)	6 (6)	1 (0)	2 (1)	4 (2)	14 (1)	163 (48)																		
	[1] [(0)]	[0] [(0)]	[2] [(1)]	[1] [(1)]	[0] [(0)]	[1] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[17] [(8)]																	
(D) 就職率(%)	63.6 (42.9)	99.0 (100.0)	98.1 (96.9)	98.7 (100.0)	97.1 (95.9)	95.0 (93.9)	63.6 (50.0)	69.6 (58.8)	94.6 (94.7)	99.4 (97.3)	95.4 (96.4)	87.5 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	84.8 (71.4)	98.1 (100.0)	96.0 (91.1)																		
昨年の就職率(%)	75.0 (100.0)	97.5 (100.0)	96.5 (96.8)	96.1 (95.2)	99.3 (97.8)	100.0 (100.0)	82.1 (70.6)	90.6 (88.0)	94.9 (95.7)	97.5 (95.7)	92.1 (88.0)	96.7 (93.8)	100.0 (100.0)	800	-	93.8 (90.0)	70.8 (70.4)	95.2 (91.9)																		
(E) 進学者数	2 (0)	13 (4)	25 (9)	28 (4)	24 (7)	37 (9)	10 (6)	8 (6)	8 (4)	38 (3)	28 (3)	8 (4)	4 (2)	4 (0)	3 (2)	22 (10)	20 (2)	282 (75)																		
(内訳：大学院 本学進学者数 大 学 他)	2 (0)	13 (4)	25 (9)	27 (4)	24 (7)	37 (9)	10 (6)	8 (6)	8 (4)	38 (3)	28 (3)	8 (4)	4 (2)	4 (0)	3 (2)	22 (10)	20 (2)	281 (75)																		
	[2] [(0)]	[12] [(3)]	[22] [(8)]	[26] [(4)]	[22] [(6)]	[33] [(8)]	[10] [(6)]	[8] [(6)]	[7] [(3)]	[35] [(3)]	[25] [(3)]	[8] [(4)]	[3] [(1)]	[3] [(0)]	[3] [(2)]	[22] [(10)]	[20] [(2)]	[261] [(69)]																		
	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[1] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[1] [(0)]																	
	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]																	
	5 (5)	5 (2)	28 (12)	4 (2)	15 (7)	8 (2)	14 (10)	13 (11)	8 (3)	16 (7)	9 (1)	13 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (0)	35 (26)	4 (0)	180 (95)																		

※A=C+E+F・D=C÷B×100

専門職大学院

	法科大学院 (法学研究科)		会計専門職大学院 (経済学院)		公共政策大学院 (公共政策学部)		合計	
	人数(名)	(うち女子)	人数(名)	(うち女子)	人数(名)	(うち女子)	人数(名)	(うち女子)
(A) 修了者数	18	(8)	15	(1)	37	(9)	70	(18)
(B) 就職希望者数	0	(0)	12	(1)	35	(8)	47	(9)
(C) 就職者数	0	(0)	11	(1)	33	(7)	44	(8)
(内数) 道内就職者	0	(0)	6	(1)	12	(1)	18	(2)
有職者	0	(0)	2	(0)	10	(2)	12	(2)
(D) 就職率(%)	-	-	91.7	(100.0)	94.3	(87.5)	93.6	(88.9)
昨年度の就職率(%)	-	-	88.9	(66.7)	100.0	(100.0)	97.1	(90.9)
(E) 進学者数	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
大学院	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
[本学進学者数]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]
大	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
[本学進学者数]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]
(F) その他	18	(8)	4	(0)	4	(2)	26	(10)

※A=C+E+F・D=C÷B×100

※法科大学院(F)その他には、修了後に実施される司法試験の受験準備者を含む。

博士課程

	法学研究科	水産科学科	環境科学科	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院	国際広報メディア・観光学院	保健科学科	工学院	総合化学院	経済学院	医学院・医学研究科	歯学院	獣医学院・獣医学研究科	医工大学院	国際感染症学院	国際食資源学院	文学院・文学研究科	情報科学・情報科学研究科	合計																					
	人数(名) (うち女子)																																									
(A) 修了者数	4	(3)	16	(5)	39	(14)	25	(5)	38	(15)	12	(6)	8	(4)	2	(0)	69	(16)	26	(12)	15	(7)	1	(0)	23	(13)	8	(4)	496	(145)												
うち単位修得退学者数	1	(1)	1	(1)	6	(3)	6	(1)	5	(2)	2	(0)	4	(2)	0	(0)	4	(2)	0	(0)	4	(2)	0	(0)	1	(1)	10	(5)	8	(1)	69	(25)										
(B) 就職希望者数	4	(3)	15	(5)	28	(10)	22	(5)	22	(7)	34	(9)	4	(1)	4	(3)	9	(5)	59	(7)	54	(11)	1	(0)	60	(12)	24	(11)	9	(4)	1	(0)	7	(3)	1	(1)	15	(7)	33	(2)	388	(96)
(C) 就職者数	3	(2)	15	(5)	27	(9)	22	(5)	17	(4)	30	(6)	4	(1)	4	(3)	9	(5)	56	(7)	50	(9)	1	(0)	60	(12)	24	(11)	9	(4)	1	(0)	7	(3)	1	(1)	15	(7)	33	(2)	388	(96)
(内数) 道内就職者	3	(2)	3	(2)	12	(3)	7	(1)	5	(0)	12	(3)	2	(0)	2	(2)	4	(1)	11	(1)	5	(0)	1	(0)	53	(11)	20	(8)	1	(0)	0	(0)	3	(1)	0	(0)	10	(5)	10	(6)	164	(40)
有職者	2	(2)	5	(1)	5	(3)	3	(1)	6	(0)	5	(1)	2	(0)	4	(3)	4	(1)	18	(1)	2	(1)	0	(0)	24	(5)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	5	(3)	8	(6)	93	(22)		
(D) 就職率(%)	75.0	(66.7)	100.0	(100.0)	96.4	(90.0)	100.0	(100.0)	77.3	(57.1)	88.2	(66.7)	100.0	(100.0)	88.9	(75.0)	87.5	(66.7)	92.5	(80.0)	89.2	(81.8)	87.5	(80.0)	98.8	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	88.2	(77.8)	91.7	(50.0)	93.8	(100.0)	94.7	(90.6)
昨年の就職率(%)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	86.2	(85.7)	97.0	(88.9)	92.7	(90.0)	94.6	(90.0)	100.0	(100.0)	88.9	(75.0)	87.5	(66.7)	92.5	(80.0)	89.2	(81.8)	87.5	(80.0)	98.8	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	91.7	(100.0)	93.8	(100.0)	94.7	(90.6)		
(E) 進学者数	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(1)
(内数) 大学院	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(1)
[本学進学者数]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]
大	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
[本学進学者数]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]
(F) その他	1	(1)	1	(0)	12	(5)	3	(0)	21	(11)	8	(3)	8	(5)	4	(1)	1	(0)	13	(5)	4	(2)	1	(0)	9	(4)	2	(1)	5	(2)	0	(0)	1	(0)	8	(6)	5	(2)	107	(48)		

※A=C+E+F・D=C÷B×100

※単位修得退学者を直上「修了者」として含める。

## 2. 地域別就職者数

### 学部

令和5年5月1日現在

企業所在地	学部		文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部		歯学部	薬学部		工学部	農学部	獣医学部	水産学部	合計
	就職者数	地域別就職者数						医学科	保健学科		薬科学科(4年制)	薬科学科(6年制)					
北海道	36 (20)	2 (1)	26 (12)	3 (0)	2 (0)	36 (9)	13 (5)	56 (48)	9 (8)		1 (0)	6 (3)	24 (3)	8 (5)	3 (1)	6 (1)	225 (111)
札幌市以外																	29 (14)
青森県																	0 (0)
岩手県																	1 (1)
宮城県	1 (1)		2 (0)						1 (1)				1 (0)				4 (1)
秋田県																	0 (0)
山形県			1 (0)														1 (0)
福島県																	1 (0)
茨城県																	2 (1)
栃木県							1 (1)										3 (3)
群馬県																	0 (0)
埼玉県																	9 (3)
千葉県	2 (0)							2 (2)					3 (0)				5 (3)
東京都	54 (19)		75 (23)			93 (20)	22 (5)	15 (14)					53 (10)	12 (6)	11 (7)	16 (5)	372 (119)
神奈川県	1 (0)		3 (2)			3 (1)	1 (1)						2 (0)				16 (9)
新潟県	1 (0)		2 (0)			1 (1)											6 (2)
富山県			1 (1)			2 (0)											5 (2)
石川県	1 (1)		4 (2)				1 (0)							1 (1)			8 (5)
福井県																	0 (0)
山梨県	1 (1)																1 (1)
長野県																	4 (3)
岐阜県			1 (0)														1 (0)
静岡県	2 (0)		4 (0)			1 (0)	1 (0)	1 (1)									8 (1)
愛知県	3 (0)		1 (1)			2 (0)							5 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	18 (4)
三重県						1 (0)								3 (2)			5 (3)
滋賀県																	1 (0)
京都府	3 (1)		2 (1)			3 (0)		1 (0)						1 (1)			11 (4)
大阪府	3 (1)		7 (2)			12 (1)	1 (0)	3 (2)					3 (0)	1 (1)	1 (0)	3 (2)	37 (10)
兵庫県						1 (0)		2 (1)									5 (3)
奈良県	1 (0)																2 (0)
和歌山県																	1 (0)
鳥取県			1 (1)			1 (0)		1 (0)					1 (0)				3 (1)
島根県						1 (0)											1 (0)
岡山県																	0 (0)
広島県						2 (0)											2 (0)
山口県																	1 (0)
徳島県																	1 (1)
香川県			1 (0)														2 (0)
愛媛県	1 (1)							1 (0)									1 (0)
高知県																	2 (2)
福岡県						2 (0)											5 (1)
佐賀県																1 (0)	1 (0)
長崎県																	0 (0)
熊本県	1 (1)																1 (1)
大分県								1 (1)									1 (1)
宮崎県																	1 (0)
鹿児島県																	0 (0)
沖縄県						1 (1)											1 (1)
海外						1 (0)											1 (0)
就職先詳細不明	17 (4)		1 (0)			3 (0)	3 (0)	4 (3)					3 (1)				30 (8)
合計	131 (51)		137 (45)			166 (33)	47 (13)	99 (83)		0 (0)	2 (1)	24 (13)	97 (15)	30 (19)	30 (20)	37 (10)	836 (319)

※ ( ) は女子で内数

修士課程

企業の所在地	研究科・学院	就職者数																計
		法学研究科	水産科学学院	環境科学学院	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院	国際言語文化学院	保健科学学院	工学院	総合化学学院	経済科学学院	医学院	医理工学院	国際資源学院	文学学院	
北海道	札幌市	1 (0)	5 (2)	11 (2)	17 (3)	14 (5)	7 (2)	5 (2)	1 (0)	12 (7)	21 (3)	5 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	3 (1)	13 (1)	125 (35)
	札幌市以外		3 (1)	14 (2)	2 (0)	8 (4)	1 (1)		1 (1)	2 (1)	1 (0)	4 (2)				1 (1)	1 (0)	38 (13)
東北	青森県		2 (2)	1 (0)														4 (3)
	岩手県		1 (0)			1 (0)												2 (0)
	宮城県		1 (0)	1 (0)		1 (0)			1 (1)	1 (1)	1 (0)	1 (0)				2 (0)		8 (1)
	秋田県		1 (1)									1 (0)						2 (1)
関東	山形県																	0 (0)
	福島県		1 (1)				1 (1)											4 (3)
	茨城県		1 (0)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	4 (4)									1 (0)		15 (6)
	栃木県					1 (1)												6 (2)
	群馬県																	1 (0)
	埼玉県		1 (1)	1 (1)	1 (1)		2 (1)			1 (1)	1 (1)	1 (1)						8 (6)
	千葉県		2 (0)	4 (2)	1 (0)		1 (1)					4 (2)	7 (2)	1 (0)	1 (0)			21 (7)
	東京都	3 (1)	51 (10)	41 (10)	34 (7)	82 (31)	34 (10)	6 (4)	11 (6)	11 (5)	170 (22)	52 (11)	6 (3)	8 (3)	3 (1)	9 (6)	11 (3)	644 (146)
	神奈川県		8 (3)	5 (2)	6 (1)	4 (1)	7 (3)				29 (2)	7 (1)			1 (0)	1 (1)	1 (1)	11 (2)
	神奈川県			1 (1)			1 (0)			1 (1)		1 (1)						4 (3)
北陸	富山県				1 (0)	2 (0)	2 (2)	1 (0)										6 (2)
	石川県				1 (0)	1 (0)				2 (0)	1 (1)							5 (1)
	福井県		1 (0)															1 (0)
中部	山梨県					1 (0)												1 (0)
	長野県		1 (0)		1 (0)	1 (0)											1 (0)	5 (0)
	岐阜県				1 (0)													1 (0)
	静岡県		2 (0)	1 (0)		2 (1)	3 (2)			2 (0)							1 (0)	11 (3)
	愛知県	3 (1)	3 (1)	1 (0)	2 (0)	3 (1)					14 (1)	6 (0)					3 (0)	32 (3)
	三重県		1 (1)	2 (2)	1 (0)		1 (1)					1 (1)						5 (4)
	滋賀県		1 (1)	1 (1)			2 (1)			1 (1)								5 (4)
	京都府					1 (0)	1 (1)											1 (0)
	大阪府	3 (2)	3 (2)	3 (0)	3 (0)	4 (2)	3 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	25 (1)	14 (4)	2 (1)	6 (1)	1 (0)	6 (0)	64 (12)	18 (2)
	兵庫県	2 (1)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	3 (1)	2 (0)				7 (0)	2 (0)						1 (1)
近畿	奈良県																	1 (1)
	和歌山県										1 (0)							1 (0)
中国	鳥取県																	0 (0)
	島根県																	0 (0)
	岡山県		1 (1)															1 (1)
	広島県		2 (1)			1 (0)				1 (0)	2 (0)	4 (0)						6 (1)
	山口県	1 (0)				1 (0)	2 (0)										1 (1)	6 (0)
四国	徳島県																	2 (0)
	香川県																	0 (0)
	愛媛県				1 (1)						2 (0)						1 (1)	3 (1)
	高知県																	1 (1)
	福岡県										2 (0)							2 (0)
九州	福岡県																	0 (0)
	佐賀県																	0 (0)
	長崎県																	2 (0)
	熊本県																	0 (0)
	大分県																	0 (0)
	宮崎県																	0 (0)
	鹿児島県		1 (1)									1 (0)						1 (0)
沖縄県		3 (2)	3 (2)	3 (2)	1 (1)	1 (0)	1 (0)		1 (1)	11 (3)	2 (0)	6 (4)				4 (0)	37 (15)	
海外		2 (2)	4 (2)							1 (0)						8 (3)	19 (8)	
就職先詳細不明		7 (3)	95 (30)	101 (31)	76 (15)	132 (47)	76 (31)	14 (7)	16 (10)	308 (36)	124 (27)	14 (7)	14 (9)	6 (1)	12 (8)	28 (10)	153 (16)	1,211 (306)

※ ( ) は女子で内数

## 専門職大学院

企業所在地	研究科等	法科大学院 (法学研究科)		会計専門職大学院 (経済学院)		公共政策大学院 (公共政策学教育部)		合計
		就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	地域別就職者数	
北海道	札幌市			4	1	9	13	(2)
	札幌市以外			2	(0)	3	5	(0)
東北	青森県						0	(0)
	岩手県						0	(0)
	宮城県						0	(0)
	秋田県						0	(0)
	山形県						0	(0)
関東	福島県						0	(0)
	茨城県						0	(0)
	栃木県						0	(0)
	群馬県						0	(0)
	埼玉県						0	(0)
	千葉県						0	(0)
	東京都			3	(0)	15	18	(4)
神奈川県						0	(0)	
北陸	新潟県						0	(0)
	富山県						0	(0)
	石川県						0	(0)
	福井県						0	(0)
中部	山梨県						0	(0)
	長野県						0	(0)
	岐阜県						0	(0)
	静岡県						0	(0)
	愛知県			1	(0)		1	(0)
	三重県						0	(0)
近畿	滋賀県						0	(0)
	京都府						0	(0)
	大阪府			1	(0)	3	4	(0)
	兵庫県						0	(0)
	奈良県						0	(0)
	和歌山県						0	(0)
	鳥取県						0	(0)
中国	鳥取県						0	(0)
	島根県						0	(0)
	岡山県						0	(0)
	広島県						0	(0)
四国	山口県						0	(0)
	徳島県						0	(0)
	香川県						0	(0)
	愛媛県					1	1	(0)
	高知県						0	(0)
九州	福岡県						0	(0)
	佐賀県						0	(0)
	長崎県						0	(0)
	熊本県						0	(0)
	大分県						0	(0)
	宮崎県						0	(0)
鹿児島県						0	(0)	
沖縄県							0	(0)
海外						2	2	(2)
就職先詳細不明								
合計		0	(0)	11	(1)	33	44	(8)

※( )は女子で内数

博士課程

企業の所在地	研究科・学院		法学研究科	水産科学院	環境科学院	理学院	農学院	生命科学学院	教育科学院	国際薬学・歯科学院	保健科学院	工学院	総合化学院	経済科学院	医学院・医学研究科	歯学院	獣医学院・獣医学研究科	医理工学院	国際感染症学院	国際食資源学院	文学院・文学研究科	情報科学院・情報科学研究科	合計
	就職者数	就職者数																					
北海道	札幌市	2 (1)	1 (0)	1 (0)	9 (2)	6 (1)	3 (0)	11 (3)	11 (3)	2 (2)	4 (1)	10 (1)	5 (0)	1 (0)	34 (10)	13 (7)	1 (0)		3 (1)	7 (4)	8 (0)	120 (33)	
	札幌市以外	1 (1)	2 (2)	2 (0)	3 (1)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)			1 (0)			19 (1)	7 (1)				3 (1)	2 (0)	44 (7)	
東北	青森県																					4 (0)	
	岩手県																					0 (0)	
	宮城県																					0 (0)	
	秋田県																					0 (0)	
関東	山形県																					1 (1)	
	福島県																					1 (0)	
	茨城県																					1 (0)	
	栃木県																					0 (0)	
	群馬県																					1 (1)	
	千葉県																					1 (0)	
北陸	東京都																					1 (1)	
	神奈川県																					1 (0)	
	新潟県																					0 (0)	
	富山県																					0 (0)	
	石川県																					0 (0)	
中部	福井県																					0 (0)	
	山梨県																					0 (0)	
	長野県																					0 (0)	
	岐阜県																					0 (0)	
	静岡県																					0 (0)	
近畿	愛知県																					1 (0)	
	三重県																					2 (0)	
	滋賀県																					1 (0)	
	京都府																					4 (2)	
	大阪府																					2 (1)	
中国	兵庫県																					1 (0)	
	奈良県																					0 (0)	
	和歌山県																					0 (0)	
	鳥取県																					0 (0)	
	島根県																					0 (0)	
四国	岡山県																					1 (0)	
	広島県																					3 (0)	
	山口県																					2 (0)	
	徳島県																					1 (0)	
	香川県																					0 (0)	
九州	愛媛県																					1 (0)	
	福岡県																					0 (0)	
	佐賀県																					1 (0)	
	長崎県																					0 (0)	
	熊本県																					0 (0)	
沖縄県	大分県																					1 (0)	
	宮崎県																					0 (0)	
海外	鹿児島県																					1 (0)	
	鹿児島県																					0 (0)	
就職先詳細不明	計	3 (2)	15 (5)	27 (9)	22 (5)	17 (4)	30 (6)	4 (1)	4 (1)	4 (3)	9 (5)	56 (7)	50 (9)	1 (0)	60 (12)	24 (11)	9 (4)	1 (0)	7 (3)	1 (1)	15 (7)	33 (2)	388 (96)
	合計																						

※ ( ) は女子で内数

(学務部キャリア支援課)

## 編集メモ

---

- 7月3日（月）より、本学公式クラウドファンディング第3弾として、「小さな命に寄り添い続ける。北海道で『小児集中治療室PICU』設立を」（目標額：700万円）の寄附金の募集を開始しています。同プロジェクトは8月31日（木）23：00まで寄附が可能です。詳細についてはQRコードからご覧ください。

北海道大学クラウドファンディング

<https://readyfor.jp/pp/hokudai>



## 裏表紙メモ

---

今月のキャンパス風景は、第一農場です。ポプラ並木の辺りから第一農場を見てみると、太陽の下で羊が放牧中でした。都会の真ん中に、羊や牛が放牧されているアンバランスとも言える風景が見られるのは、北大ならではの魅力ですね。ただし、動物たちがかわいらしくても触ったり近寄ったりはしないようにご注意を！

## キャンパス風景 40 第一農場（北12条西11丁目）



北大時報 ⑦ No.832 令和5年7月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>